

人と地球の架け橋に

竹中土木コーポレートレポート

Corporate Report 2022



わが国で唯一の「土木専門ゼネコン」として…
 環境と共生する強靱な社会基盤の構築に向けて取り組む
 当社の事業活動をステークホルダーの皆様にお伝えします。

■編集方針

2020年より会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合した「竹中土木コーポレートレポート」は、当社並びに竹中グループの「CSRビジョン」を示すとともに当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えするものです。誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中土木WEBサイトに掲載しています。

contents

竹中土木について	
トップメッセージ	4
会社/グループ概要	6
竹中土木のあゆみ	8
グループ成長戦略と竹中土木のビジョン	10
特集	
Feature-1 未来を拓く「環境ソリューション」	12
Feature-2 未来へつなぐ「働き方改革」	14
事業活動	
国土を支える「地盤改良」	16
社会をつなぐ「交通インフラ」	18
社会を支える「トンネル&地下インフラ」	20
暮らしを守る「治水・利水」	22
クリーンエネルギー&土地活用	24
インフラの長寿命化	26
海外プロジェクト	28
新しい時代を拓く「技術開発」	30
ニーズに応える「設計&技術提案」	32
事業活動を支える「管理部門」	33
CSR活動/ステークホルダーとともに	
CSRビジョン/ステークホルダーの皆様とともに未来へつなぐ	34
地球環境を守る/美しい地球を未来の子供たちに遺す	36
地域社会に貢献/地域社会の持続的な発展に寄与する	38
お客様のために/最良のソリューションでお客様の信頼を得つづける	40
従業員とともに/多様な人格・個性を尊重し互いに成長しつづける	42
マネジメント/公平公正な事業活動を推進・展開する	44
ステークホルダーとの対話/多様な人々とともに…	46
グループ会社/竹中道路の活動/明日へとつづく道づくり	47

対象期間 2021年1月～2021年12月(当該年以外の活動も一部掲載しています)
対象範囲 当社の活動をまとめていますが、一部(株)竹中工務店との共同活動及び、(株)竹中道路の活動も含まれています。
参考ガイドライン 環境省の「環境報告ガイドライン 2018年版」を参考にしました。
公開 2022年4月(次回公開予定:2023年4月)
お問い合わせ先 経営戦略室 TEL. 03-6810-6493 FAX. 03-6660-6301
 ホームページ <https://www.takenaka-doboku.co.jp/>



取締役会長

行中康一

取締役社長

竹中祥悟

未来を見据えた『ビジョン』を指針として…

当社は1941年の創立以来、時代とともに変化する社会やお客様の要請に応えながら「ものづくり」の道を堅実に歩みつづけてきました。

「創立75周年」(2016年)を機に…私たちは、これまでの歩みを振り返るとともに「将来の会社像=未来のあるべき姿」をしっかりと見据えた『竹中土木2025年ビジョン』を策定。「強くしなやかな国土をつくり人々の暮らしを守る」という建設業の使命を全うするとともに、働き方改革や業務効率の向上、技術革新などに取り組んで躍進への礎を築き、将来に亘って持続的に発展していくために全社員が意識を共有しながら「ビジョン実現」への歩みを一層加速。併せて、時代が求める「デジタルトランスフォーメーション=DX」や「カーボンニュートラル」などにおいてもイノベーションを追求していきます。

時代のニーズと社会の要請に応えつづける

当社は、近年の社会環境を踏まえて「国土強靱化の意識を高めた広義に亘る環境共生の社会基盤を構築していくこと」を念頭に、社会資本ストックの長寿命化やICT・BIM/CIM・ロボット/AIなどを活用した「生産性改革」、DX推進による「業務改革」などで企業価値のさらなる向上を目指し、ステークホルダーの皆様の“満足と信頼”を一層高めながら進化をつづけていきたいと考えています。

本業とするダム・トンネル・シールド・土地造成などの深耕はもとより、年々要望が高まる防災・減災やインフラリニューアル分野の開拓に加え、東南アジアを基軸に中央アジアなどの新規市場も視野にいれて海外事業を一層拡充していきます。

近年、益々激甚化する自然災害に対し…政府は、引き続き総事業規模15兆円の「防災・減災、国土強靱化5カ年加速化対策」を進めていくこととしています。私たち建設業は、「国土づくりの担い手」であることを改めて肝に銘じ、災害時には最前線で国民の安全を確保する「地域の守り手」としての役割をしっかりと果たしていきたいと思えます。また、戦略的かつ継続的に新規事業の開拓に取り組むなかで建設請負業の枠を越えた「新領域」への挑戦を加速させ…「新しい価値」を創生していきます。

併せて、企業の財産である従業員の待遇改善と休日の取得促進、働き方改革やダイバーシティへの取り組み等を継続。ワークプレイスの改革やDX推進による業務プロセスの見直しなど、多様なアプローチで「柔軟な働き方」や「生産革新」を追求していきます。この2年間のコロナ禍においても全社を挙げてリモートワークを推進…内外勤が一体となって業務効率の向上を図るなど、誰もが存分に能力を発揮し健康に安心して働ける職場環境の整備を加速させて「社員満足度の向上」を目指しています。

私たちは、竹中工務店グループの一員である誇りを胸に、事業活動のあらゆる場面で2030年までに達成すべき『持続可能な開発目標=SDGs』の実現に貢献するとともに、「脱炭素社会」に向けた取り組みを加速…求められる役割を着実に遂行しながら、豊かで安全な国民生活の追求とサステナブル社会の実現に挑みつづけます。

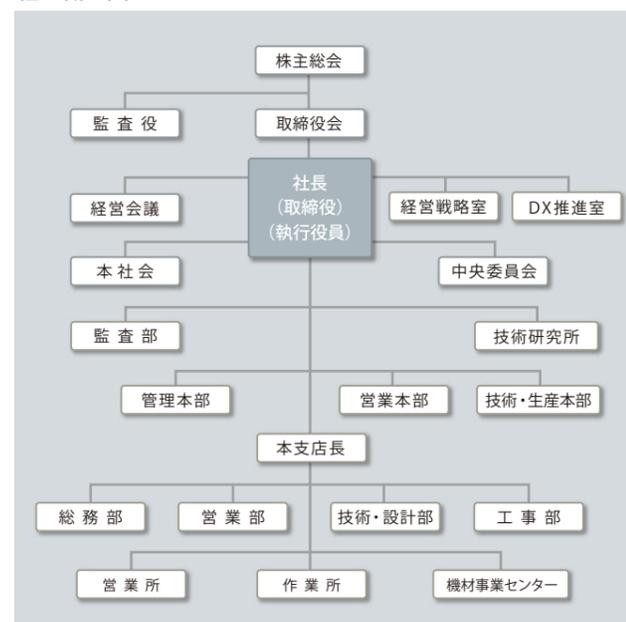
さらに、社会情勢や時代の潮流を的確に捉えて新たな分野に「果敢にチャレンジ」することで持続的に発展をつづけ…求められる社会的責任を果たしながら「魅力溢れる輝く企業」へと進化していきます。

2022年4月

会社概要

社名	株式会社 竹中土木	
本社所在地	東京都江東区新砂一丁目1番1号	
設立	1941年6月25日	
資本金	70億円 (2021年1月現在)	
売上高	942億円 (2021年度)	
受注高	732億円 (2021年度)	
従業員数	929名 (2022年1月現在)	
	技術系職員	698名
	事務系職員	231名
資格者数	一級土木施工管理技士	555名
	技術士	82名
	宅地建物取引士	60名
事業内容	土木工事及び建築工事の請負、設計及び監理 不動産関連業務 地域・都市・海洋開発及び環境整備事業 前各号の業務に係わるエンジニアリング、 マネジメント及びコンサルティング業務 前各号に付帯する業務	
取引銀行	三菱UFJ銀行 みずほ銀行 三井住友銀行 他	

組織図



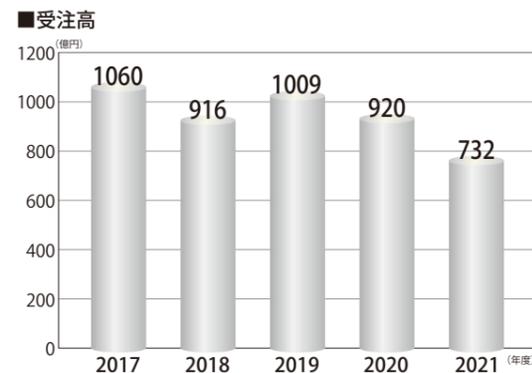
本支店・営業所一覧

- 本社 東京都江東区新砂1-1-1
〒136-8570 ☎ 03-6810-6200
- 北海道支店 札幌市中央区大通西4-1
〒060-0042 ☎ 011-241-6428
- 東北支店 仙台市青葉区国分町3-4-33
〒980-0803 ☎ 022-221-7681
- 盛岡営業所 盛岡市大通3-3-10
〒020-0022 ☎ 019-623-0234
- 福島営業所 福島市五月町10-17酪農会館401
〒960-8061 ☎ 024-563-1421
- 東京本店 東京都江東区新砂1-1-1
〒136-8570 ☎ 03-6810-6218
- 横浜支店 横浜市西区花咲町6-145
〒220-0022 ☎ 045-321-3141
- 新潟営業所 新潟市中央区東大通1-2-23
〒950-0087 ☎ 025-282-5837
- 名古屋支店 名古屋市中区錦2-2-13
〒460-0003 ☎ 052-231-2121
- 北陸営業所 福井市中央3-3-23
〒910-0006 ☎ 0776-97-6871
- 静岡営業所 静岡市葵区追手町2-20
〒420-0853 ☎ 054-255-9104
- 三重営業所 桑名市長島町浦安131-9
〒511-1135 ☎ 0594-45-8216
- 大阪本店 大阪市中央区本町4-1-13
〒541-0053 ☎ 06-6252-4081
- 四国支店 高松市西内町12-11
〒760-0022 ☎ 087-851-8427
- 神戸営業所 神戸市中央区浜辺通2-1-17
〒651-0083 ☎ 078-252-3355
- 京都営業所 京都市中京区壬生賀陽御所町3-1
〒604-8811 ☎ 075-801-1760
- 滋賀営業所 滋賀県蒲生郡日野町大字奥之池559-2
〒529-1610 ☎ 0748-53-2231
- 奈良営業所 奈良市大宮町3-4-29
〒630-8115 ☎ 0742-36-3113
- 広島支店 広島市中区橋本町10-10
〒730-0015 ☎ 082-222-7400
- 岡山営業所 岡山市北区田町2丁目1-10
〒700-0825 ☎ 086-224-7838
- 九州支店 福岡市中央区天神4-2-20
〒810-0001 ☎ 092-711-1831
- 熊本営業所 熊本市中央区草葉町4-22
〒860-0843 ☎ 096-324-0329
- 沖縄営業所 那覇市銘苅3-23-24
〒900-0004 ☎ 098-867-4594
- 国際支店 東京都江東区新砂1-1-1
〒136-8570 ☎ 03-6810-6223
- 竹中技術研究所 千葉県印西市大塚1-5-1
〒270-1395 ☎ 0476-47-1700

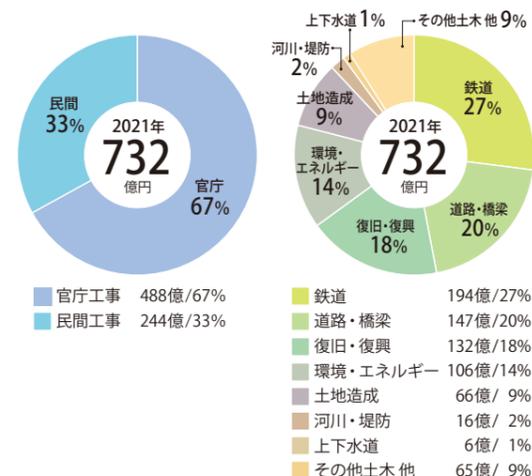
OVERSEAS OFFICE

- Philippine Branch Office
18th Floor, Tower 2, The Enterprise Center,
6766 Ayala Avenue cor. Paseo de Roxas, Makati City,
1200 Philippines
TEL : +63-(0)2-7757-4781
FAX : +63-(0)2-7757-4786

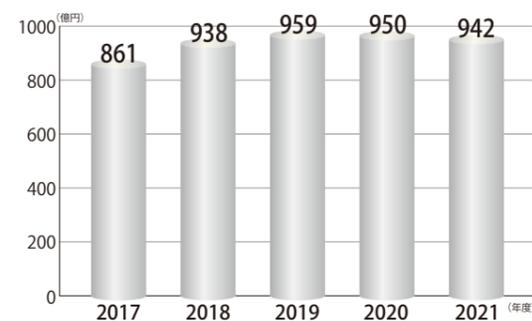
業績ハイライト



受注高構成比



売上高

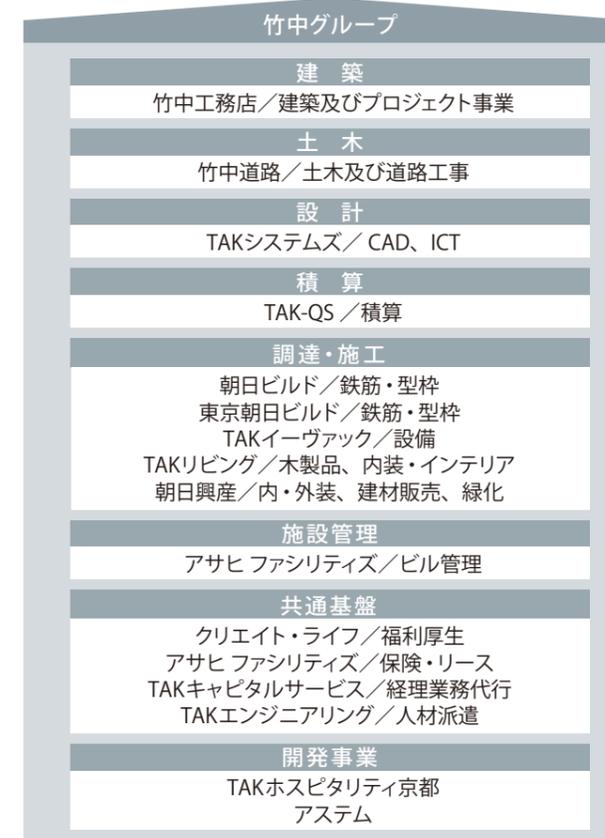


当期純利益・純資産残高



竹中グループ〈各社の事業内容と主な活動〉

- 株式会社 竹中工務店**
◆建設工事の請負並びに設計及び監理、不動産の開発・取引等
- 株式会社 竹中道路**
◆道路舗装工事及び舗装資材の製造・販売
- 株式会社 朝日ビルド**
◆鉄筋工事及び型枠工事
- 株式会社 東京朝日ビルド**
◆鉄筋工事及び型枠工事
- 株式会社 TAKイーヴァック**
◆電気・給排水衛生・空調設備工事
- 株式会社 TAKリビング**
◆木製品の製造・販売及び内装・インテリア工事
- 株式会社 朝日興産**
◆内・外装工事を主とした工事、建設資材の販売、造園、植樹、緑化の企画・施工、石油製品の販売
- 株式会社 アサヒ ファシリティズ**
◆不動産の管理及び損害保険代理業務
- 株式会社 TAKシステムズ**
◆建築の設計・施工に関するCAD業務並びにコンサルティング
- 株式会社 TAKエンジニアリング**
◆建築工事に伴うエンジニアリング・マネジメント業務の受託、人材派遣業務、人材紹介業務
- 株式会社 TAK-QS**
◆建築工事に伴う積算業務の受託
- 株式会社 クリエイト・ライフ**
◆従業員福利厚生及び総務・人事に関する総合業務受託
- 株式会社 TAKキャピタルサービス**
◆ファクタリングサービス並びに財務会計業務の受託
- 株式会社 TAKホスピタリティ京都**
◆「山荘京大和」「パークハイアット京都」の開発事業運営管理
- 株式会社 アステム**
◆「芦屋浜高層住宅地区」の不動産賃貸・維持管理



当社のルーツは、日本の建設技術を海外で飛躍させることを目指し、1937年に竹中工務店と大手ゼネコン数社で構成された「匿名組合共栄会」です。東南アジアや中南米で多くの土木工事を施工しました。

1941年にその他ゼネコンが参加し、「海外土木興業株式会社」が設立され、初代取締役会長に当時の竹中工務店社長 竹中藤右衛門が就任しました。その後、竹中工務店が全株式を取得し、1946年に「朝日土木興業株式会社」に改称して竹中グループの土木会社となりました。

(1967年に竹中土木株式会社に改称、1973年に株式会社竹中土木に改称) 私たちはこれからも、竹中グループの一員としてお客様のニーズや社会の変化に柔軟に応えるソリューションの提供と作品創造を通じて、サステナブルなまちづくりに貢献しつづけていと思っています。

1975

1941年 H16

・海外土木興業株式会社 設立

1946年 H21

・朝日土木興業株式会社と改称

1960年 H35

・東海道新幹線「有楽町高架」施工

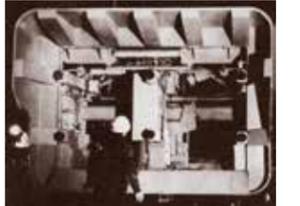


1963年 H38

・小型機械化シールド掘削機完成

1965年 H40

・名古屋市「栄町共同溝工事」をわが国初の「矩形シールド工法」により施工



1967年 H42

・竹中土木株式会社に改称

1973年 H48

・株式会社竹中土木と改称

1974年 H49

・モンバサ国際空港(ケニア共和国)施工



1975年 H50

・DCM工法(深層混合処理工法)を開発

1985

1977年 H52

・沖縄・安波ダム施工
・中部ジャワ道路改良工事施工(インドネシア共和国)
・本州四国連絡橋「門崎高架橋」施工
・「横浜港大黒埠頭岸壁基礎地盤改良工事」をDCM工法で施工



1979年 H52

・DCM専用船「第三竹中号」完成
・DCM工法が第31回毎日工業技術賞受賞



1981年 H56

・わが国初のダムコンクリート圧送工法(PCD工法)を開発

1982年 H57

・「DCM6号船」完成

1984年 H59

・竹中式スラッシュ処理システム(TST)が業界初の環境庁長官賞を受賞
・ジャカルタ-メラク間高速道路工事施工
・ジャカルタ市内立体交差工事施工(インドネシア共和国)



1985年 H60

・シールド自動測量システム「ADAMS」を開発

1995

1986年 H61

・ジャカルタ駐在員事務所開設

1987年 H62

・ダム用自動式型枠工法を開発

1988年 H63

・新しい反力方式により推進するECL工法(PRES工法)を開発
・中国電力柳井火力発電所 護岸工事施工



1991年 H3

・創立50周年を迎える
・インドネシア共和国にて現地法人設立

1992年 H4

・耐震固化工法「TOFT工法」を開発
・名阪自動車道
名古屋インターチェンジ施工



1993年 H5

・河川浄化TRENDSシステムを開発
・「緑化コンクリート」を開発

1994年 H6

・ジャカルタ中央鉄道高架化工事施工(インドネシア共和国)

1995年 H7

・阪神淡路大震災で「TOFT工法」による液状化防止効果を立証



2000

1996年 H8

・ケニアナイロビに駐在員事務所を開発
・タイチョンブリ立体交差施工



・北陸新幹線 丸子トンネル施工



1997年 H9

・東京湾横断道路 浮島トンネル施工



1998年 H10

・東名高速横浜青葉インターチェンジ施工



1999年 H11

・高品質再生粗骨材「サイクライト」の製造システムを開発



2000年 H12

・「ニューソイル」が地球環境技術賞を受賞

2005

2001年 H13

・長沢不二男会長が土木学会功績賞を受賞

2002年 H14

・「TOFT工法」が第4回国土技術開発賞受賞
・長島ダム施工



2003年 H15

・みなとみらい線 新高島駅施工



2004年 H16

・地盤改良技術「DCM-L工法」が建築技術性能証明を取得
・石神井川護岸改修工事施工



2005年 H17

・君津最終処分場(施工)が環境の先駆的取り組みを表彰するウェスティック賞で環境大臣賞を受賞



2011

2006年 H18

・東北新幹線八甲田トンネル工事ほかで土木学会技術賞を受賞
・「DCM工法」に4軸機を投入



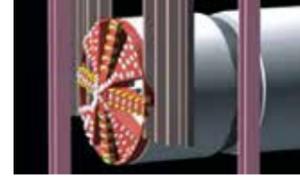
2008年 H20

・コーポレートメッセージ制定『人と地球の架け橋に』
・忠別ダム工事が土木学会技術賞を受賞



2009年 H21

・内径3500mmの切削シールドにより世界初の本格工事で鋼材切削除去成功



2010年 H22

・関西国際空港施工



・覆工コンクリートの養生システム「ひびないん養生システム」を開発、実証
・ルーマニア鉄道近代化工事施工



2011年 H23

・インドネシアパトゥーハ地熱発電所施工



2016

2012年 H24

・「クラコン養生管理システム」を開発
・「スマートコラム工法」を開発
・当別ダム施工(国内初の本格のCSGダム)



2013年 H25

・深層混合処理工法「DCM-L工法」で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発、実証
・SMW工法や場所打ち杭などの鉛直精度管理システムを開発、実証
・「スマートコラム工法」実証試験を公開



2014年 H26

・「端末管事前撤去型AGF工法(AGF-Tk工法)」を開発
・岩手県大槌町震災がれき処理完了



2015年 H27

・竹中工務店とのJVで「エキスポランド跡地複合施設開発事業」竣工
・四日市グリーンソーラーガーデン」完成
太陽光発電事業に参入



・「3次元開発設計支援システム」を開発
・「パイプクーリング制御システム」を開発

2016年 H28

・創立75周年「2025年ビジョン」を発表
会社 竹中土木 創立75周年記念総会



・マニラに「フィリピン支店」を開設
・清滝生駒道路 高山大橋交差点施工
・トンネル工事における発破音を低減する覆工コンクリート養生型吸音バルーンシステム『ノイズカットバルーン』を開発

2021

2017年 H29

・盛土締固め試験作業の無人化に向けて自動R1試験ロボットを宇宙航空研究開発機構(JAXA)・竹中工務店と共同開発
・土木仮設構造物変状自動計測システム「Tメッシュネット」を大阪大学他と共同開発

2018年 H30

・L2地震(液状化)対応
広間隔格子状地盤改良工法を開発
・災害に強い新たな「まちづくり」石巻市新門脇地区震災復興業務



・補強鋼板運搬設置用ミニピュレータを開発
・厚生労働大臣より女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を取得
・「トンネル切羽変状可視化システム」を神戸大学他と開発

2019年 H31/R1

・ユラース大豊ウインドファーム施工



・フィリピンマニラ地下鉄工事受注

2020年 R2

・フィリピンバイパス・トンネル工事受注



・「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」が第22回国土技術開発賞で「最優秀賞」

2021年 R3

・創立80周年
・東名高速道路 日本平久能山スマートインターチェンジ施工



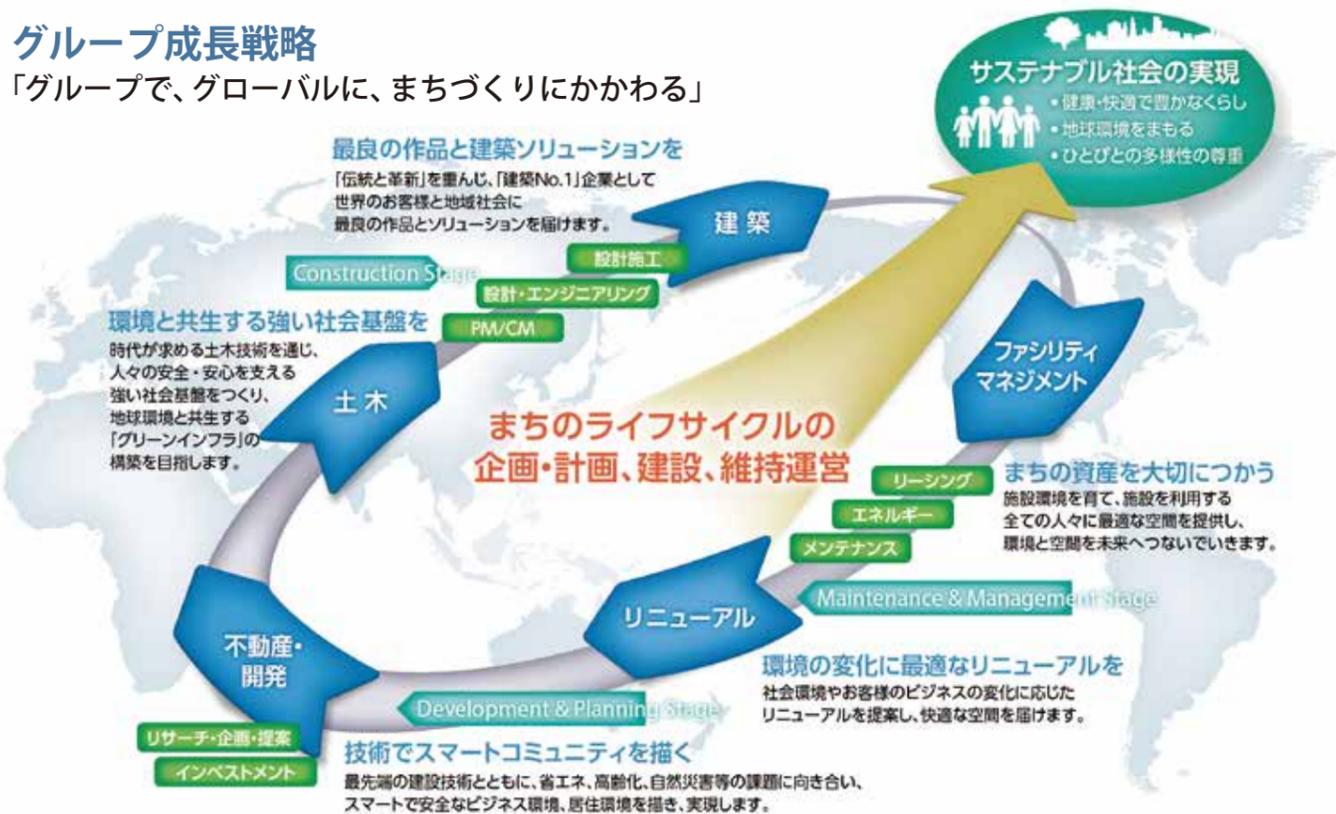
・「汚染地盤の加温式原位浄化技術」が第48回「環境賞」で「環境大臣賞」受賞



私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を続けながら技術の研鑽を重ね、建設技術とサービスが融合した新しいソリューションで「まち」に新たな価値を提供します。そして、社会やお客様にとって最良のパートナーとなることで持続的な成長を目指していきます。

グループ成長戦略

「グループで、グローバルに、まちづくりにかかわる」



2016年当社は、社会環境に適合しながら持続的に発展するために「2025年ビジョン」を策定…時代が求める土木技術を通じて人々の安全・安心を支える「強い社会基盤」をつくとともに地球環境と共生する「グリーンインフラの構築」を目指しています。私たちは、グループ全体で社会的価値を創造する「まちづくり総合エンジニアリング企業」の一翼を担い安全・安心な社会の持続的発展に貢献しつつすることで着実なステップアップを図りステークホルダーとともに「輝く未来」へつなげていきたいと考えています。

竹中土木2025年ビジョンの目指す姿

「魅力溢れる輝く企業」へのステップ

当社は、竹中グループが進める「まちづくり総合エンジニアリング企業」の事業領域のなかで、環境と共生する強い社会基盤「グリーンインフラの構築」を目指し、人々が安全・安心に暮らせる社会の持続的発展に貢献することで、「光り輝く企業」へと進化しつづけます。

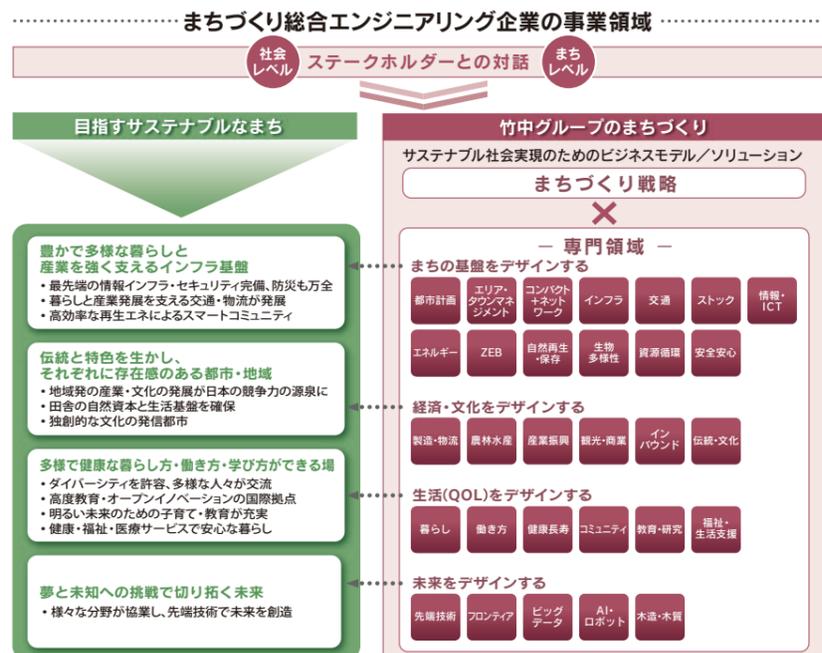


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 貧困をなくそう
- 飢餓をゼロに
- すべての人に健康と福祉を
- 質の高い教育をみんなに
- ジェンダー平等を実現しよう
- 安全な水とトイレを世界中に
- エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 働きがいも経済成長も
- 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 人や国の不平等をなくそう
- 住み続けられるまちづくりを
- つくる責任 つかう責任
- 気候変動に具体的な対策を
- 海の豊かさを守ろう
- 陸の豊かさも守ろう
- 平和と公正をすべての人に
- パートナーシップで目標を達成しよう

目指すサステナブル社会と「まちづくり」の推進

竹中グループは、建設事業を中核としてさらに進化をとげ、「まちの基盤」、「経済・文化」、「生活(QOL)」、「未来」のデザインを行い、建設事業に新たなソリューションをもたらすと同時に、建設事業との相乗効果により新規事業を含むサービス事業などのビジネスモデルで社会に価値を提供する「まちづくり総合エンジニアリング企業」としての取り組みを加速させます。そのために、竹中らしさである伝統と革新を重ね、グローバルな視点を持ちつつ、ステークホルダーとの対話を深めることで共有価値を創造し、地域社会の動向を踏まえた戦略を策定してまちづくりに貢献していきます。



私たちの目指すグリーンインフラ

当社は、サステナブル社会の実現に向けて環境と共生する強い社会基盤…「グリーンインフラ」への挑戦を加速させます。従来の「壊して・つくる」フロー消費型社会で培ってきた高度な土木技術を、多様化・高度化する社会のニーズに適應できるよう進化させ、「良いものをつくり」…「手入れして(強靱化)」…「長く大切に使う」…ストック型社会の実現に寄与したいと考えています。



カーボンニュートラルな社会に向けて…

「環境と共生する社会基盤の構築に努め、社会の持続的発展に貢献する」…私たちはこの環境方針のもと、2050年までに「カーボンニュートラル」を目標に脱炭素をはじめ環境への様々な取り組みを事業活動のあらゆる場面で加速させ、誰もが健康・快適で豊かに暮らせる社会の実現を目指します。



事業活動のあらゆる場面で『SDGs』や脱炭素の推進が求められる昨今…
企業の「環境問題」への取り組みは経営の継続に不可欠なファクターとなっています。
なかでも、関係法令による規制や土地売買等における価値の下落はもとより
コンプライアンスや企業イメージにも影響する『汚染土壌』への対応は最重要課題と言えます。
当社は、土壌汚染対策技術の開発や施工実績を活かしてお客様が抱えるリスクや課題と向き合い
それぞれのニーズに最適の環境ソリューションを提供していきます。



建物等の解体及び土壌汚染対策(東京都)

豊富な専門知識＆『コストキャップ保証』

土壌に特化した専門部署として発足した土壌環境グループは、長年の工事経験で土壌対策に関する様々なノウハウを蓄積。汚染土壌に関する調査と行政手続き、計画の立案、対策工事＆モニタリング、そして完了後の土地活用の提案まで…お客様の要望に合わせた最適のソリューションを提供しています。2021年からは、汚染土壌に関する調査～手続き～工事において「お客様の費用をFIXし、コスト増加の不安を払拭」すべく『コストキャップ保証』の提案などを含め幅広く活動を展開。これまでの経験で培われた専門知識・ノウハウと土壌対策技術を駆使し、ニーズに即した最良のソリューション＆コストパフォーマンスで「土壌汚染のリスク」に対応します。

多くの経験と専門知識を有する専任スタッフが
お客様が抱える「リスクや課題」と向き合います



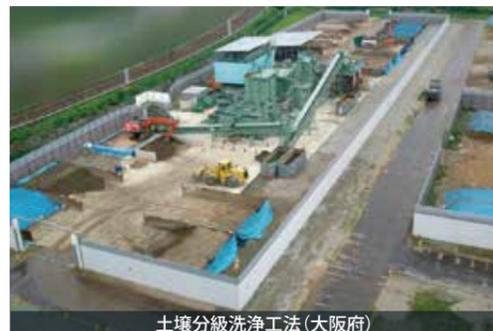
最良のソリューションとコストを提案



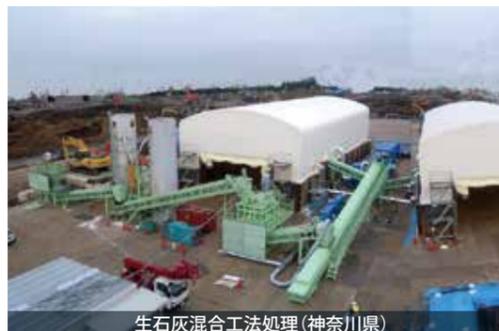
❖ 施工実績の一例



DCMe工法による地下水原位置浄化(群馬県)



土壌分級洗浄工法(大阪府)



生石灰混合法処理(神奈川県)

土壌対策工事におけるTAKENAKAの環境ソリューション

A バイオメディエーション
微生物等の働きを利用してVOC・油を分解します。土中に生息する微生物を活性化する方法(バイオスティミュレーション)や、外部で培養した微生物を導入する方法(バイオオーグメンテーション)があります。また、掘削する方法(バイオパイル)もしくは原位置で浄化する方法(バイオペンディング、地下水循環方式)のいずれの工法も採用可能です。

B ナノアイロン注入工法
土中に鉄粉を注入し、VOCを分解します。

C 原位置フラッシング工法
VOC・油を掘削せずに原位置で洗浄します。

DCM®-e工法
竹中の固有技術DCM®工法により、地盤強度を損なわずに土中に鉄粉を攪拌・混合し、VOCを分解します。

フェントン法
酸化剤による強力な酸化作用により、高～中濃度のVOC・油を短期間で分解します。

E 生石灰混合、アルミクリーン®工法
生石灰・アルミ粉末によるアルカリ反応によりVOC・油を揮発させ土から分離します。

G 封じ込め技術
地盤改良、鋼矢板、コンクリート構造物等を用いて汚染を周辺環境から隔離し、封じ込めます。

H 固化・不溶化技術
各種固化・不溶化材を用いて汚染の人体への影響をなくします。

I 舗装・盛土
土壌含有基準に適合しない汚染土壌の表面を舗装もしくは盛土します。

GEOCLEAN WORKS

土壌汚染を除去(浄化)する		敷地内に汚染を封じ込める	
浄化技術	汚染物質	封じ込め技術	汚染物質
A B C E	VOC	G	G H I
D	重金属	G H I	
A B C	PCB・ダイオキシン類	G	
	油	G	

浄化技術: 封じ込め技術

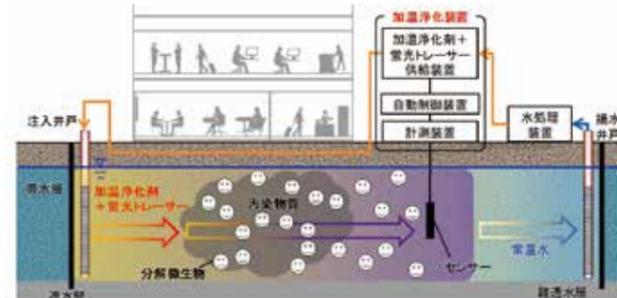
土壌汚染対策のメリット
汚染土壌を浄化することで企業の社会的責任が果たされるとともに、適正価格での不動産取引が可能となるなど「資産価値の向上」が見込めます。さらに、浄化を終えた土地の有効利用や各種開発行為についても、竹中グループのトータルソリューションで対応します。

汚染土壌対策の最新技術

汚染された土地を再生し持続可能なまちづくりを…

❖ 汚染地盤加温浄化システム

クロロエチレン類に汚染された地盤に対する原位置浄化システム「温促バイオ」を開発。微生物による分解がもっとも活性化する25～30℃に地盤を加温する機能と、不均質な地盤へ加温浄化剤を均一に注入する制御機能を両立した世界初のバイオスティミュレーションによる原位置浄化システムです。重機使用を最小限に抑える本システムは、汚染土壌全量を掘削除去する場合に比べCO₂排出量を50%以下に削減できます。



● 第48回「環境賞」において【環境大臣賞】に輝く！

汚染地盤加温浄化システムは、第48回「環境賞」の「低炭素社会/大気・水・土壌」の分野において「環境大臣賞」を受賞。今後は、本技術を竹中グループとして積極的に採用して原位置浄化の普及活動を推進するとともに、不動産開発分野と連携した「土地を活用しながらの汚染地盤浄化」等への展開で、環境負荷の低減と取引の活性化へ繋げていきます。

お客様のニーズに最適の対策で応えたい！

土壌環境グループが対応する調査や対策工事の案件数は年を追う毎に増加しており、今では年間60件を超える程。仕事量の増加に伴いメンバーも増強され、現在は13名の専任スタッフが所属…その内4名が女性技術者です。「お客様の立場でリスクコミュニケーションを支援する」をモットーに、お客様が抱える土壌汚染のリスクや課題と向き合い…他社に負けないハイレベルな知識＆ノウハウに裏付けられた提案力と絶対的なコストパフォーマンスで営業活動を展開。ニーズに合わせた最適土壌調査や対策計画の立案、対策工事とモニタリング、さらに、その後の開発工事への引渡しに至るまでをトータルで行っています。また、対策工事の品質トラブルは法律違反となる場合もあるので防止対策を徹底…専門フォロチームによる良否判断や「施工標準書」を設ける等で品質を確保。お客様からも「竹中土木に頼んでよかった」と高い評価を頂いています。



今後も全国的に活動を行い、お客様の期待に応えるべく最大限のスキルを発揮したいと考えています。
東京本店/工事部
土壌環境グループ GL
小岩 征義さん
(1991年入社)

業務プロセスを改革し 魅力ある建設業に…



作業所事務所と現場詰所をWEBでつなぎオンラインで打ち合わせ(大手町地下通路作業所)

詰所で打ち合わせに参加(大手町地下通路作業所)

ライブカメラで現場の状況を遠隔監視(上半原トンネル作業所)

オフィスカーで業務を効率化(大月耐震補強作業所)

作業所事務所をフリーアドレス化して新たな働き方にチャレンジ(横浜青葉IC作業所)

現場詰所をいつでも内勤業務を行える環境に…(東中瀬開発造成作業所)

「働き方改革」に取り組み魅力ある会社へ…

少子高齢化が進展する中で、国が掲げる「一億総活躍社会」の実現に向けた「働き方改革」の取り組みが加速しています。当社が推進する「働き方改革」は、生産性向上に向けて対策を講じるとともに、職場環境の充実を図りつつ「全従業員が働きやすい環境で心身ともに健康で働き最大限の能力を発揮できる」ことを目指しています。また、2007年から継続している経営トップと語る『オンサイトミーティング』を通じて、社員の想いを反映しながら「ワークライフバランスの向上」や「ワークプレイスの改善」に継続して取り組んでいます。私たちは、ステークホルダーや社会からの共感と信頼を得ながら「新しい働き方」への改革を加速させ、魅力ある総合建設会社として持続的に発展していきたいと考えています。



社員が「想い」を述べる「オンサイトミーティング」

「DX」推進による業務改革&事業変革

これまでの仕事のやり方にイノベーションを起こすべく…建設業における“デジタル化への道筋”をしっかりと見据えて「デジタルトランスフォーメーション=DX」を推進しています。データとデジタル技術を活用して生産性・安全性の向上や業務プロセスの改善に取り組むとともに、事業活動のあらゆる場面で「デジタル化による業務改革&事業変革」を推し進めて企業価値のさらなる向上を目指しています。

ワークプレイスの改善

当社は、時代の潮流に即した「新しい働き方」、既成の価値観にとらわれない「柔軟な働き方」を目指し、業務プロセスの見直しやワークプレイスの改善を進めています。

❖ 作業所のフリーアドレス化

横浜青葉IC作業所では、従来の形式にとらわれないワークプレイスとして事務所を「フリーアドレス化」。時代に即した柔軟な働き方にチャレンジしています。

ワークライフバランス

会社を支える従業員の誰もがやりがいをもって健康に働き、充実した生活を送れるよう、意見交換を行いながら「ワークライフバランス」の向上に取り組んでいます。「労働時間の削減」を推進するとともに育児や介護に関わる「従業員支援制度」を一層充実させ、誰もが仕事と生活の調和が図れる環境整備を進めています。

❖ 多様な働き方を目指して…

子育てや介護を支援する「時短勤務」や「スライド出勤」はもとより、不測の事態が起きても業務を継続できるよう「テレワーク」や「リモート会議」などを推進しています。



テレワーク



リモート会議

ICT活用による業務の効率化&省人化

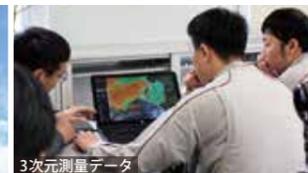
ICT活用による生産性向上及び作業所業務の効率化による労働時間の削減を目指して2019年に「ICT推進グループ」を設置。GNSS測量・レーザースキャナ測量・UAV写真測量やICT建設機械、CIMなどを活用した「ICT施工」の早期全国展開を図るとともに、「ICT推進」の中核を担う人材を選抜して専任研修を行うなど、将来を見据えた人材育成にも力を注いでいます。



ICT建設機械



UAV写真測量



3次元測量データ



ICT建設機械



GNSS測量機器のデモンストレーション&研修

業務プロセスを見直し「働き方改革」を推進

タブレット端末活用や「ICT」の積極的な展開に加え、外部コンサルを活用して仕事を進める手順や手法を多面的に検証しながら「働き方改革」を推進。従来の業務プロセスを見直して業務の効率化と労働時間の削減につなげています。

2024作業所働き方コンセプト

作業所における「労働時間の削減」は喫緊の課題です。そこで、客観的データに基づく働き方の分析と従来の働き方に対する意識改革を目指して2020年より外部コンサルと連携。ICT活用による業務の効率化、新しい現場運営方法の確立と浸透、技術レベル&作業所管理業務の理解度向上に向けた教育体系の整備などを網羅した総合的な指針として「2024作業所働き方コンセプト」を策定し「働き方改革」に取り組んでいます。また、各作業所がトライアルした「改革に有効な事例」は、全社的に展開して業務効率の向上につなげています。

❖ 作業所の「完全週休2日」実現に向けて…

労働時間の削減と業務の効率化をさらに推進すべく、ステークホルダーとともに課題を抽出しながら作業所における「完全週休2日」の早期実現に向けて歩みを進めています。

「完全週休2日」で仕事もプライベートも充実

この現場は協力会社も含め作業所全体で「完全週休2日&残業は月20時間以内」と意識を共有。働く時間が短いので「業務の効率化」が大切…1日の目標を決めて確実に終わらせるため、常に「もっと効率良く!」と意識して仕事に向き合うようになりました。また、品質管理や安全管理の面でも「気づき」があれば直ちに行動して是正。作業前・後の確認をこれまで以上に徹底するなど、細かな配



慮と早めの行動を心がけて日々の業務に励んでいます。土日の休みは、家事のほか「資格取得の勉強」にも充てられるのでありがたいですね(笑)。横浜青葉インターチェンジ耐震補強工事業所 伊藤 佳恵さん (2020年入社)

私たちが目指す「魅力ある働き方」



台風や大雨による自然災害が激化する昨今…
 災害に負けない「強い国土」への期待は高まる一方で。
 土木を専門とする当社は、想いを込めて大地と向き合い
 強くしなやかな国土に向けて「地盤改良技術」を追求…
 将来に亘って「安全・安心な社会」を支えつづけます。



DCM船による海底の地盤改良(東京都)



TOFT工法による建築構造物基礎の地盤改良(大阪府)

強い国土を支える「地盤改良技術」

1975年に当社が開発した「深層混合処理工法(DCM工法)」は、海底や河川などの軟弱地盤にスラリー状のセメント系固化材を添加・混合して地盤を強固に改良する技術で、DCM専用船による海底地盤の改良工事で、東京湾横断道川崎人工島工事(1990年)、関西国際空港II期工事(2000年)、東京国際空港D滑走路(2007年)など数多くの実績を遺してきました。その後、海底・河川だけでなく建築工事における軟弱地盤の改良や地盤の液状化防止など陸上工事のニーズが高ことから、1981年に「DCM-L工法」へと発展。土木工事のみならず、建築構造物の基礎工事などにも数多く適用され、2004年には(財)日本建築総合試験所から「建築技術性能証明」を取得。軟弱地盤の支持力増強や地震時の液状化対策において、コストや工期に貢献する「安全で信頼性の高い地盤改良工法」として広く認知されています。海底・河川から陸上へと進化した地盤改良技術「DCM工法」は発展を続け、山留を用いずに掘削する「DCMオープンカット工法(DOC工法)」や軟弱な地盤を格子状に囲んで地盤改良する液状化対策技術「TOFT工法」、「DCM-L工法」による改良体で遮水壁を構築して汚染土壌を封じ込める技術、住宅地など狭隘な施工条件下での液状化対策技術「スマートコラム工法」など様々な技術に応用されています。

- 1975年・DCM工法(深層混合処理工法)を開発
- 1979年・DCM工法が第31回毎日工業技術賞を受賞
- 1990年・大規模オープンカット工法「DOC工法」を開発
- 1992年・耐震固化工法「TOFT工法」を開発
- 1995年・阪神淡路大震災の地盤沈下被害の中で「TOFT工法による液状化防止効果」を立証
※写真は神戸港中突堤で液状化被害を免れたホテル
- 2002年・地盤改良処理機の建入れ精度制御システム「パペット工法」を開発
- 2004年・TOFT工法が第4回国土技術開発賞を受賞
- 2006年・DCM-L工法が『建築技術性能証明』を取得
- 2011年・DCM工法に「4軸機」を投入
- 2013年・DCM-L工法が『土壤汚染封じ込め性能証明』を認証
 ・DCM-L工法で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発・実証
 ・宅地の液状化対策技術「スマートコラム工法」を千葉県浦安市で実証・公開
- 2015年・スマートコラム工法が地盤工学会関東支部技術賞受賞
- 2019年・DCM-L工法が『建築技術審査証明』を改定
 設計基準強度5,000kN/m²に対応
- 2020年・「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」が第22回「国土技術開発賞」最優秀賞を受賞



国土技術開発賞で「最優秀賞」

東日本大震災に伴い浦安市などの戸建て住宅地で深刻な液状化被害が発生…恒久対策が望まれるなか、当社及びケミカルグラウト(株)は、家屋に住民が居住したままで地盤改良施工が可能な「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」を開発…第22回国土技術開発賞で「最優秀賞」を受賞しました。

開発技術の特徴

- ・複雑な地盤条件に対応する新しい設計法(疑似3次元解析)
- ・「小型機械攪拌式スマートコラム工法」により6m幅程度の街路における効率的施工を実現
- ・「超小型高圧噴射攪拌式エコタイト工法」により住宅間の超狭所施工(幅80cmの隙間)を実現



既存住宅の住まいながら液状化対策工法



豪雨などの自然災害に備える技術開発を…

世界各地で豪雨に伴う水害や土砂災害が頻発…国内でも堤防決壊や盛土崩落に伴う土石流など大きな被害が発生。旧設計基準で施工された土構造物は、近年の集中豪雨に対応できず…補強による性能向上が求められています。



当社は「スマートコラム工法」を適用した補強工法の開発に着手。室内模型実験及びCDM研究会と共同で海岸堤防を対象とする設計法の整備を行っており、施工機械の開発も行う予定です。
 技術・生産本部/技術開発部
森 守正 課長
 (2003年入社)



DCM工法による河川の地盤改良(東京都)



DCM工法による天津コンテナバース地盤改良(中国)



DCM-L工法による港湾法に基づく臨港道路の地盤改良(三重県)



河川堤防復旧工事における地盤改良(岩手県)



高速道路盛土工事における地盤改良(徳島県)



住宅地の液状化対策(千葉県)

新幹線や高速道路など速くて安全な交通網は生活に欠かせない存在です。当社は、北陸新幹線・北海道新幹線・リニア中央新幹線や新東名高速道路など社会を便利につなぐ「交通インフラ」の整備を通じて人々の快適な暮らしを未来へとつなげていきます。



北陸新幹線 丸岡春江高架橋 (福井県)

発注者：鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社
工事内容：工事延長 L=2,217m
ラーメン高架橋 17連、RC橋脚 54基、Ct桁 54連、オープンケーソン 9基、変電所施設 1箇所、他一式



現場一丸となって難しいミッションをクリア!

急ピッチで進められる北陸新幹線(金沢~敦賀間)工事の中で、当工区は諸事情により工事着手が遅れたため開始当初から厳しい工程で、人員の確保や資機材の調達にも四苦八苦。そんな状況にも、2020年12月の軌道工事への引渡しに向けて職員・作業員が「一致団結」…中でも新幹線工事未経験ながら歯を食いしばって現場を動かしてくれた後輩職員の頑張りに感謝。JRTTあわら鉄道建設所管轄内で最もクリティカルであった工区を「発注者が求める工程」に乗せ…ミッションをクリアすることができました。



総合所長がつくってくれる朝食・夕食で腹回りが気になりますが(笑)、最後まで気を緩めることなく「安全と品質」を確保。“後世に遺る仕事”を誇りを持ってやり遂げたいですね。
作業所長
加藤 雅樹さん
(1994年入社)



新東名高速道路 秦野インターチェンジ (神奈川県)

発注者：中日本高速道路株式会社 東京支社
工事内容：工事延長約1,950m、切盛土工 2,210,000m³、トンネル工上り620m・下り670m、カルバート工 12箇所、橋橋梁下部工 橋台10基・橋脚11基、他一式

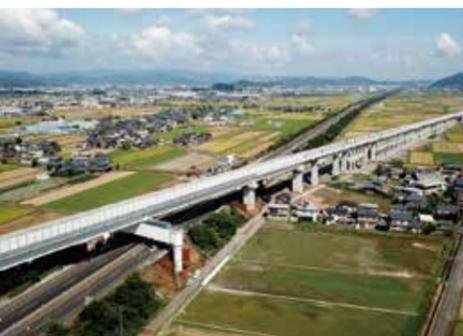


「現場の和」を大切に皆でやり遂げた喜びを!

所要時間の短縮のみならず経済活動の活性化や観光振興、災害時のライフラインなど様々なストック効果が期待される新東名のインターチェンジ工事に携わって早5年半…自身初の監理技術者として発注者や他社工区との協議・調整や工事全体の工程管理、近隣対応等が主な業務です。本工事は、220万m³の切盛土工事・大規模構造物・トンネル等を含むビッグプロジェクト。所長や諸先輩方の力強いサポートと後輩達の頑張りに助けられ…現在は伊勢原~秦野間の部分開通に向けて追い込みの真っ最中。工期



も残り2年となりましたが、これまで通り現場の和を大切に…全員で「やり遂げた喜び」を分かち合えるよう、「安全&品質確保」の日々を竣工まで積み重ねていきたいですね。
監理技術者
川村 結太さん
(2005年入社)



北陸新幹線 武生橋りょう (福井県)



北陸新幹線 敦賀駅高架橋 (福井県)



北陸新幹線 南越前鋼製シェルター (福井県)



東名高速 日本平久能山スマートインターチェンジ (静岡県)



北陸自動車道 上市スマートインターチェンジ (富山県)



四国横断自動車道 旭野 (徳島県)

普段なにげなく利用しているトンネルや地下通路など暮らしを便利にする社会インフラは土木技術が支えています。当社は、新たな道や地下空間を創造し人々の安全で快適な社会生活を未来につなげていきます。



小松拡幅 北小松トンネル工事 (滋賀県)

発注者：国土交通省 近畿地方整備局 滋賀国道事務所
 工事内容：工事延長 L=448m
 道路トンネル L=414m (NATM) (代表内空断面積67m²)
 トンネル掘削・覆工 L=414m、坑門工2箇所、仮設工 他一式



現場の苦心・苦労はいつか必ず役立つはず…

国道161号とJR湖西線に挟まれた丘陵地を通過する北小松トンネルは、全長414mと短いものの小土被りのトンネル直上に宿泊施設が近接する難工事。2020年9月に掘削を開始し、変位計測や一部発破掘削から機械掘削への変更など周辺環境に配慮しながら2021年6月に無事貫通…現在は、インバート及び覆工コンクリートを施工中です。トンネル工事は3本目なので以前の経験が活かしているものの、並行するトンネルが計画されているため、覆工及びインバートは「全線RC構造」で過密鉄筋。施工・品質管理



面で苦労は多かったのですが、前向きに頑張る若い職員達に助けられて工事は残り僅か…彼らと共に最後まで気を抜くことなく良い作品に仕上げ、笑顔で現場を後にしたいですね。
 監理技術者
黒木 祐志さん
 (2005年入社)



大手町二丁目地区(再)関連地下通路 (東京都)

発注者：(独)都市再生機構 東日本賃貸住宅本部
 工事内容：通路延長L=約60m、通路幅W=3.5~4.0m、内空高H=2.1~2.6m
 地下通路建築内装・電気設備・機械設備 一式、エレベーター・エスカレーター各1基、他一式



類を見ない複雑な都市土木に総力を結集して!

本工事は、地下鉄大手町駅A5出入口と大手町ブレイスウエストタワーの地下2階部を連絡する地下通路を地域冷暖房洞道と一体化して開削工法にて築造するもの。重要埋設物が多数輻射しステークホルダーが多岐に亘る類を見ないほど“複雑な都市土木”ゆえ苦心苦労は多々ありましたが、総力を結集して事故なく施工を完了。2021年10月1日に地下通路は無事開通し、通行する人々の姿を見たときは…やはり感慨深いものがありましたね(笑)。日々ご指導頂いた諸先輩方、経験の少ない地下工事&夜



間施工にも常に前向きに頑張ってくれた後輩職員たち、そして、事あるごとに助けて頂いた技術部と協力会社の方々…ここで改めて総ての皆様にご心より感謝したいと思います。
 作業所長
山田 大さん
 (1997年入社)



北陸新幹線 第2福井トンネル (福井県)



東北中央自動車道 上保原トンネル (福島県)



中部横断自動車道 東根熊トンネル (山梨県)



熊本市池上区1号トンネル (熊本県)



日本生命栄ビル新築工事に伴う地下接続通路設置工事 (愛知県)



天神明治通り地区地下通路 (福岡県)

暮らしを守る「治水・利水」 土木の叡智で安全・安心な社会に…

地球規模の気候変動により自然災害が猛威を振るう近年
人々が快適に暮らせる「安全・安心な社会」が求められています。
当社は、ダムをはじめ河川の堤防・水門・防潮堤などの整備に取り組み
土木の知恵と技術で安全・安心な暮らしを守ります。



Construction-4
暮らしを守る「治水・利水」

成瀬ダム (秋田県)

発注者：国土交通省 東北地方整備局
規模：台形CSGダム
堤高 114.5m、堤頂長 755m、堤体積 4,850,000m³
流域面積 68.1km²、総貯水容量 約7,850万m³



大船渡港 跡浜地区海岸防潮堤 (岩手県)

発注者：岩手県
工事内容：施工延長L=2,358m、盛川防潮堤(築堤護岸)L=891m、
市道付替(右岸線)L=284m、(川口橋線)L=466m、
旧橋撤去L=157m、普金地区防潮堤L=560m 他一式



東北復興への想いを「納得いくカタチ」に…

「東日本大震災」の大津波で被害を受けた大船渡港海岸の「跡浜地区海岸防潮堤工事」に従事して約3年半…近隣や工事関係者には被災された方が多数おられ、自身も宮城県生まれなので「東北復興に寄与したい」という想いは人一倍強く…同時に「こうした災害から人々の暮らしを守る土木」に対する期待の大きさを肌で感じる毎日です。

現在は、監理技術者として工事全体の工程管理及び施工計画を担うとともに発注者や関係各所との協議、そして若い後輩たちを指導しながら施工に励む日々。工期も残り僅かとなりましたが最後まで気を緩めず…安全・品質はもとより総ての面で「納得のいくカタチ」で竣工を迎え、作業所メンバーや地域の皆様と笑顔で喜びあえたら最高ですね。

監理技術者
伊澤 拓郎さん
(2010年入社)



ダム建設の醍醐味を若い世代に伝えたい…

本工事は、流域の災害抑止と環境保全、農業及び水道用水の確保や発電など多様な役割を担う最新の台形CSGダムを建設するもの。現地で採取した石や砂れきとセメント・水を混合した材料をローラで締固めて堤体をつくるCSG形式のダムとしては「日本最大規模」となります。豪雪地ゆえ冬期は休工という施工条件の中、CSG工法による短工期・低コスト化に加え、建設重機の自動化やマシンガイダンス等…最先端のICTを活用。多くの人々が力を合わせても数年かかるダム工事は、苦心・苦労は多いもの



の、出来上がったダム湖を目にした際の達成感は言葉に尽くせない程…若い職員には広い視野で知識・技術を吸収し、ダム建設のノウハウと醍醐味を継承してもらいたいですね。
作業所長
三浦 勝雄さん
(1990年入社)



大分川ダム(大分県)



小石原川ダム(福岡県)



宮古仲原地下ダム-箕濱西部(沖縄県)



盛川筋塩場地区河川災害復旧(岩手県)



青野沢川河川堤防整備(宮城県)



由良川相川水門(京都府)

環境と共生するサステナブル社会の実現に向けて
クリーンエネルギーや遊休地の有効活用への期待が高まっています。
当社は、人と環境に優しい「グリーンインフラ」の構築を目指し
持続可能な「ストック型社会」に向けた取り組みを加速させています。



オプトン成田神崎太陽光発電所(千葉県)

発注者：東芝プラントシステム株式会社
工事内容：開発面積 39ha、最大発電出力 18MW、パネル設置 48,600枚、
架台基礎杭工 12,766本、アレイ架台工 1,482基、
仮設通路工、フェンス工、場内整備 他一式



未来を支えるプロジェクトに“若手”が躍動!

太陽光発電は、我が国のエネルギー自給率向上と脱炭素社会に向けて期待される再生可能エネルギーの軸…未来を支えるプロジェクトに携われて大変光栄に思います。歴史の古い土木ですが太陽光発電に関してはまだ確固たる工法はないようで…今回は、造成された事業地全域が調整池となる設計のため、大雨が降ると30cm程の水たまりに…この水の迅速な処理が工程管理の重要ポイントでした。また、2度の記録的な台風の直撃で工程は非常に厳しいものに…それでも作業所挙げての奮闘でなんとか工期内に完了。発注者から表彰された時の達成感は一とおでした。懸命に頑張った若いメンバーが、今回の経験を糧にどれだけ成長してくれるのか…楽しみにしていますよ(笑)。

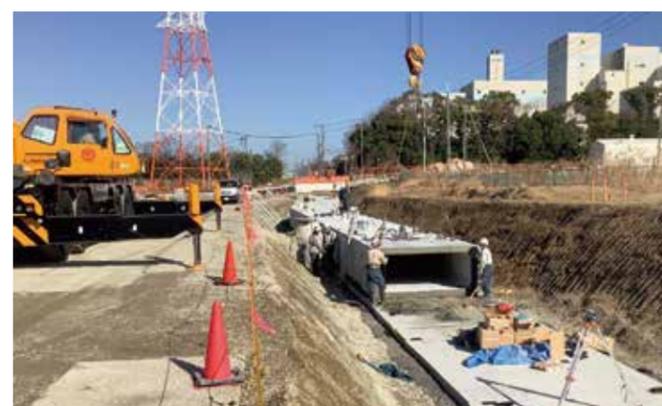


作業所長
石川 雅康さん
(1990年入社)



茨木市南目垣東野々宮土地区画整理(大阪府)

発注者：茨木市南目垣・東野々宮土地区画整理組合
工事内容：開発面積 28.2ha、盛土工 134,800m³、用水路工 1,400m、
道路工 W=4m~23m L=2,150m、公園・緑地工 6箇所、
調整池工 2基、農地整備 他一式



「新たなまちづくり」で地域の発展に貢献を…

商業施設等が集積する茨木市中心部の混雑緩和と地区全体の計画的なまちづくりを目的とする本事業は、土地区画整理事業に実績豊富な当社が一括業務代行方式で受注。現在、区画整理組合と連携しながら工事を進めています。施工現場は28.2haと非常に広いうえ、元が田畑であったことから全体が軟弱土・腐植土…地下水位も高く掘削作業に非常に苦勞。また、インフラ工事・近隣住民との調整や交通量の多い府道の改良工事もあるため…工事の円滑な進捗と“安全・品質の確保”に精を出す毎日です。



今は、何より2023年5月末の“工事完了”に向けて全力投球!…商業施設や物流施設等が完成すれば“新たなまち”がスタート…地域の発展に少しでも貢献できたら嬉しいですね。
監理技術者
安野 敏和さん
(2006年入社)



ユース大豊ウインドファーム(高知県)



是川太陽光発電所(青森県)



防府バイオマス・石炭混焼発電所(山口県)



伊達市高子駅北地区土地区画整理事業(福島県)



那覇広域都市計画事業・アワセ土地区画整理事業(沖縄県)



はつが野三丁目開発・宅地造成(大阪府)

社会環境の変化に適応した「既存インフラ延命」のニーズが高まっています。
当社は、「まちづくり総合エンジニアリング企業」を目指す竹中グループの一翼を担い
環境と共生するグリーンインフラ&強い社会基盤の構築を推進し
社会の持続的発展に貢献しつづけます。

東北道六万部橋他 跨高速道路橋耐震補強 (埼玉県)

発注者：東日本高速道路(株) 関東支社
工事内容：RC巻立・RC増厚194.6m³、炭素繊維巻立74.3m²、
ポリマーセメントモルタル補強33.4m³、はく落防止対策138.1m²、支承取替4基、
水平力分担構造44基、鋼製中間梁2基、鋼製変位制限装置20基 他一式

耐震補強工事のノウハウを次代に繋げたい!

本工事は、先の熊本地震で「落橋・倒壊」などの被害を受けたロッキング橋脚と同様の構造を有する7つの跨高速道路橋の耐震性能を高め、大規模地震で憂慮される東北自動車道の機能停止を防ぐためのものです。
7橋の傷みや状況を個別に確認してから施工に着手するも、点在する高速道路外の施工は準備や移動が大変。さらに高速道路内での施工は常に危険と隣り合わせ等々…手間と時間を要する工事に試行錯誤の連続。そんな中でも若い職員たちが懸命に頑張ってくれるので有難いですね。



最後まで安全第一の施工でお客様に喜んで頂くとともに、頑張ってくれた後輩達と一緒に笑顔で竣工を迎え…蓄積した耐震補強のノウハウを次代に繋げていければと思っています。
監理技術者
石戸 瑞穂さん
(2001年入社)



常盤高架橋他3橋 耐震補強 (香川県)

発注者：本州四国連絡高速道路株式会社
工事内容：RC巻立 452m³、アラミド繊維巻立 596m²、
水平力分担構造 130基、横変位拘束構造 1基、
既設変位制限構造改良 6橋脚、落橋防止構造 22基 他一式



社会インフラの延命に貢献できる技術者に…

本工事は、本州から瀬戸大橋を渡った四国側の瀬戸自動車道橋脚及び坂出北ICランプ橋の耐震補強を早急に行い、大規模地震に耐え得る性能を確保するものです。
既設構造物の現状に合わせた補強を行うための現地調査で、ICランプ橋に取り付ける補強装置のほとんどが「当初計画位置に装着出来ない」と判明…「設計図面と照査し変更計画図を作成しつつ施工を進める」という未知の業務に加え、橋桁直下の作業スペース確保や材料の動線の工夫などにも四苦八苦。補強装置の設置を終えた時は、達成



感より安堵感の方が大きかったですね(笑)。今回は「経験の大切さ」を改めて実感。蓄積した耐震補強工事のノウハウを活かして今後も挑戦し、社会に役立てていきたいと思っています。
現場代理人
杉村 尚樹さん
(2014年入社)



四ツ谷橋跨高速道路橋耐震補強 (群馬県)



東名横浜青葉インターチェンジ耐震補強 (神奈川県)



海老取川防潮堤耐震補強 (東京都)



大阪地下鉄2・5号線耐震補強 (大阪府)



首都高速道路(永福)上部工補強 (東京都)



綾瀬川護岸耐震補強 (東京都)



1941年設立の海外土木興業(株)をルーツとする当社の海外事業は開発途上国の社会インフラ整備を通じて経済発展に大きく貢献。現在は、フィリピン支店を中核として事業展開を図るとともに新規市場を視野にグローバル人材の育成にも力を注いでいます。

子供たちにきれいな水を…ヌサトゥンガラ給水事業(インドネシア)



鉄道近代化事業(ルーマニア)



ハイウェイ整備事業(ジョージア)



ノースアベニュー駅(2021年10月)

フィリピン・マニラ首都圏地下鉄事業(2020年～)

日本のODA事業である「マニラ首都圏地下鉄事業」は、マニラ都市部の深刻な交通渋滞の緩和を目的に計画された同国初の地下鉄建設工事です。北部のミンダナオ通りとアキノ国際空港が位置する南部ウエスタンピクタンを結ぶ全長31.4kmの区間に、15駅舎と1車両基地を整備するという巨大プロジェクト…当社を含むJVは、先行して部分開業する6.9kmの区間に3駅舎(タンダンソラ駅・キノノハイウェイ駅・ノースアベニュー駅)と車両基地並びにそれらを結ぶ3区間に「総延長9.3kmのシールドトンネル」を建設するものです。



中間杭設置工(2021年10月)

フィリピン・ダバオ市バイパス事業(2020年～)

フィリピンのミンダナオ島に位置するダバオ市中心部において、人口過密に伴う交通渋滞が深刻化し、通勤時間帯には混雑緩和のためトラックの通行を規制するなど、効率的な物流・人流経路の確保に支障をきたしています。本事業は、南端部のシラワンと同市中心部のインダンガンを結ぶバイパス道路(約30km)を建設するもので、当社を含むJVはトンネル工事*(上下線約2.3kmのトンネル2本を含む約10.7km)を施工します。

※本事業のトンネル工事は、長大山岳トンネルとしてはフィリピン初の規模



トンネル北側坑口(2021年12月)



南側坑口ボーリング調査(2021年10月)



「国家プロジェクト」に誇りを持って…

田中 将太さん(2016年入社)

海外研修から国内工事で経験を積み、念願だった海外工事の「マニラ地下鉄」へ配属。国内とは違う環境の中で品質・安全を確保して施工を進めていく難しさを感じています。現地スタッフとの会話はすべて英語…互いに外国語なので勘違いが発生することもあり、『確認が何より大切』と学びました。フィリピン初の地下鉄工事という国家プロジェクトに携われることを誇りに…スタッフと協力しながら安全第一で竣工を目指し、フィリピンの発展に貢献したいと思っています。

中央アジアのキルギス共和国で新規工事を受注(2021年11月)

タラス-タラス道路 ウルマルル川橋梁架替工事



キルギスとカザフスタンを結ぶ国際幹線道路であるタラス-タラス道路のウルマルル川に架かる橋梁を架け替えるとともに橋へのアクセス道路を整備…運輸交通網の改善と物流の円滑化によって運輸インフラ維持管理と地域間格差の是正に寄与するものとして期待されています。

工事概要 政府開発援助(ODA)
発注者 キルギス共和国 交通通信省(MOTC)
施工場所 タラス市郊外、ウルマルル川
契約工期 2021年11月15日～2024年4月30日
工事内容 PC橋梁90.5m(上部工:3径間@30m-T型桁) 橋台2基、橋脚2基、護岸工L=300m、道路改良工1,100m、既存橋梁解体撤去、道路付帯工 他一式

国際支店の活動

「2025年ビジョン」達成に向けた戦略の一環として積極的に海外事業を展開…東南アジア・中央アジア・東欧などの地域でODA案件を中心に営業活動を進めています。

フィリピンでの2つの大型ODA工事&中央アジア キルギスへの展開

当社は「2025年ビジョン」において、会社像の実現に向けた全社戦略に「事業基盤の進化」を掲げ、その重大要素のひとつとして「海外事業の基盤構築」を挙げています。アジア通貨危機(1997年)の影響で一時縮小された海外事業ですが、2006年よりインドネシアやルーマニアで海外事業を再開し、2014年には「国際支店」を復活。市場や安全面などを考慮して東南アジアや東ヨーロッパのODA案件を中心に事業基盤構築に取り組んでいくこととしました。2016年4月にはフィリピンのマニラ首都圏に「フィリピン支店」を開業し、2つの巨大プロジェクト…「マニラ首都圏地下鉄事業」と「ダバオ市バイパス事業」の受注に成功。また、東欧ジョージア国東西道路(2015年竣工)の施工実績を活かして、中央アジアでODA案件の獲得にチャレンジし、キルギス共和国の「ウルマルル川橋梁架替工事」を2021年11月に受注しました。



富田 洋 国際支店長 (1989年入社)

国際支店はこれからも新規進出国のプロジェクトを開拓し、活躍の場を広げていきます。海外事業はリスクが多岐であるだけに慎重な姿勢が求められますが、海外工事のノウハウを蓄積して次代に継承していくことも重要。「海外にチャレンジしたい!」と志を抱いて入社する若手社員たちの夢に応えるためにも、「未来への希望がふくらむ実績」を着実に積み上げていきたいと思っています。

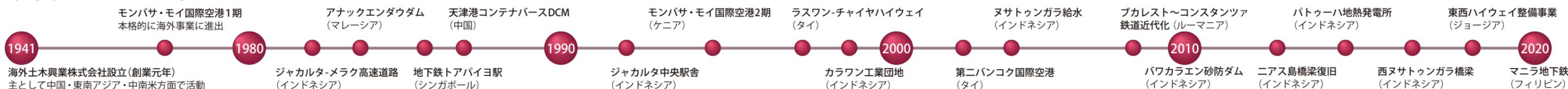


フィリピン支店が居を構えるエンタープライズセンタービル



キルギスプロジェクト調印式

海外プロジェクトの歩み



モンバサ・モイ国際空港1期(ケニア)



地下鉄トアパイヨ駅(シンガポール)



天津港コンテナバースDCM(中国)



ジャカルタ中央駅舎(インドネシア)



第二バンコク国際空港(タイ)



パワカラエン砂防ダム(インドネシア)



バトゥーハ地熱発電所(インドネシア)



東西ハイウェイ整備事業(ジョージア)



現代社会が求める環境や安全・安心、生産革新などにかかわる最先端の技術開発とイノベーションを指向する独自のシーズ技術の研究開発は竹中技術研究所を中心に推進しています。



新しい時代を拓く「技術開発」

専門分野の技術者が集う竹中技術研究所

1953年開設の竹中技術研究所は、「時代のニーズ」を先取りした竹中グループ全体の「新技術の創出」及び「実証フィールド」として世界トップレベルの研究を行い、お客様に満足いただける価値を提供しています。建築や土木など建設全般にかかわる多様な専門分野の技術者が集い「TAKENAKA」の伝統と経験に革新を融合。関連部署や国内外の研究機関と連携しながら世に送り出した数々の技術は、我が国を代表する施工法として高い評価を得ています。

未来を拓く先端技術の研究開発

竹中グループは、これからの「まちづくり」に向けて「地球環境に貢献する技術」「安全・安心・快適性を支える技術」「最先端の空間創造技術」「高度な建設を可能にする技術」の4つの領域で研究開発・技術革新に取り組んでいます。時代とともに変化する社会のニーズ、地域やお客様が抱える課題を的確に捉え…まちづくりのあらゆるステージで先端技術・ソリューションを提供していきます。



社外の方々との共創ゾーン

研究深耕と新価値創造を目指して

「新価値創造力の向上」を目指した2つのコンセプト…「一人ひとりの創造性が高まる環境へ」「オープンイノベーションを促進する環境へ」を念頭に、既成概念にとらわれないゾーニング・空間設計と最新の建築・設備・情報技術を適用してオフィスエリアを大規模にリニューアルしました。

- ① Creation 一人ひとりの創造性が高まる環境へ
ABW*でよく見られる「家具・内装による多様性」と、「建築設計による多様性」を掛け合わせ、創造性を刺激するさまざまな空間を構築。さらに、多様な個人が行き交う空間設計により、今までにないコミュニケーションが醸成されることで創造的活動の増加も期待できます。
- ② Innovation オープンイノベーションを促進する環境へ
外からの刺激によるイノベーションを目指して…課題の発見や解決策の創出につながる「深い対話の促進」と、「研究資源

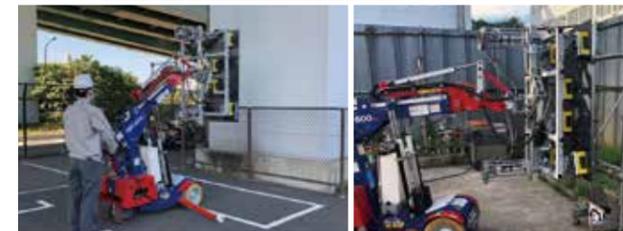
のオープンな活用」に適した環境へと整備しました。分野や立場を超えたダイナミックかつセキュアな議論を加速させ…時にはお客様さえも巻き込みイノベーションの創出を後押しします。
* [ABW] Activity based Workingの略
「打ち合わせ」や「集中して思考する」などアクティビティに応じ、ワーカー1人ひとりが自由に執務エリアを選択する働き方。

生産性向上に向けた技術革新

竹中土木は、2025年ビジョンのなかで「生産性向上」を掲げ、「安全・品質」に寄与する技術開発とイノベーションを推進しています。ICT・CIMの活用をはじめロボット・UAV・GNSSを用いた「無人化・自動化」技術の開発など、多様なアプローチで生産性向上に向けた「技術革新」に取り組んでいます。

研究成果の一例

❖ 補強鋼板運搬設置用マニピュレーターの開発
需要の増大するインフラの補強・補修工事において建設機械を活用し、鋼板を安全容易に揚重・接着する技術を開発。建設機械にカメラ等を搭載し、自己位置を検知することで鋼板を揚重してから接着するまでの最適な操作方法を操作部モニターに表示させて誘導するシステムです。本システムを用いることで作業に不慣れな人でも一連の作業を容易に行うことができ、省力化・高効率化に加え安全性向上が期待できます。



耐震補強工事での実証

開発したマグネット式アタッチメント

技術研修生を選抜し次代の技術者を育成

建設技術の高度化・多様化に対応すべく全店から「技術研修生」を選抜…2年間の実習・研究を通じて設計・施工の中核を担う次代の技術者を育成しています。

確かな知識で的確に対処できる技術者に…

工事を進めるなかで設計と現場状況に乖離が生じた際、急遽仮設架台を施工した事がありました。技術部の方に構造検討を手伝っていただき何とか対応したのですが、自分の専門知識不足を痛感。イレギュラーな状況に遭遇しても「確かな知識に基づいて的確に対処できる技術者になりたい」との思いで技術研修生を志望しました。2年間の研修では、各分野のスペシャリストと一緒に将来を見据えた基礎的な研究から受注に繋げる技術開発まで幅広いテーマに関与…この得難い経験を無駄にせず、「先々を見通して対応できる土木技術者」を目指したいですね。



第62期研修生
(2011年入社) 白井 健太郎さん

知識と多角的視点で現場の問題を解決したい

現場で突発的に発生する問題に対して、「技術・知識不足ゆえ対応が遅れる・解決策が提案できない」等の場面が度々あり…「問題を迅速・的確に判断して解決へと導く知識や多角的視点、折衝力やプレゼンテーション力を身につけたい」と考えて技術研修生を志望しました。研修では、最先端の技術・研究に触れながら竹中工務店や社内外のエキスパートとの交流を通じて、問題を多面的に捉える広い視野や柔軟な思考力が身に付いたと実感。今後も、この経験を糧に現場で存分に力を発揮し、土木技術者としてステップアップしていきたいと思っています。



第62期研修生
(2014年入社) 佐藤 俊さん



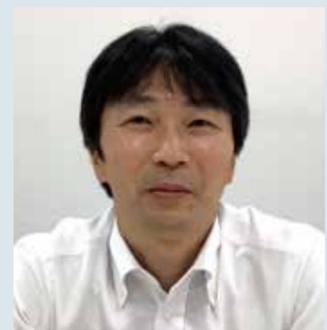
お客様の課題は私たちの解決テーマ

当社は、高度化・多様化する社会のニーズやお客様の要望に応える設計&施工を追求しています。企業理念と品質方針を基に、技術設計部が関連部署と連携しながら柔軟な発想で創造力を駆使…プロジェクトを具現化する「設計プラン」や「技術提案」でお客様が抱える課題を解決します。

北陸新幹線橋梁工事の手延べ架設基礎の設計



現場に寄り添った技術支援で最良の解決策を…技術支援で印象に残っているのが、鋼重量2,800tの鋼製桁を手延べ架設する「架台の設計」を担当した北陸新幹線の橋梁工事。既設の北陸自動車道を跨ぐ上部工は非常に重構造ゆえ、一般の仮設橋台の3倍相当の荷重に耐える構造設計を行ったのですが…施工中は常に「大丈夫かな?」…心配が高じて架台が壊れる夢をみることも度々。無事に施工が終わった時には充実感よりも「ホッとした」が本音…「不安からの解放」が何より嬉しかったですね。施工がうまく進み「無事に工事を完了する」ことこそが技術支援のやりがい…これからも現場に寄り添って方策を



考え、できる限り現場が施工しやすい「最良の解決策」を見出せるよう日々精進。施工を終えた仲間と一緒に喜びあえたら嬉しいですね。
名古屋支店/工事部
技術・設計グループ GL
柿澤 雅樹さん
(1998年入社)

地震で損傷した下水管更生方法の提案



持続可能な社会に向けて技術面で貢献を…大阪北部の分流汚水を集水している幹線において一部管渠の腐食が確認され、自治体が補修計画を進めていた中で大阪北部地震により下水管渠が損傷し道路陥没が発生。道路通行規制は夜間のみ、道路下にインフラ埋設管が密集、二次災害発生リスク等…複雑な施工条件に対処すべく「高圧噴射攪拌工法を実施後に管更正を行う施工方法」を計画・提案。確実な止水対策と逸泥の防止、管内掘削時の施工性確保や地下埋設物への影響等に気を配りながら施工を行い、施工条件や作業環境が非常に悪い中での難工事でしたが、二次災害の発生なく完了しました。



老朽化したインフラの補修や延命化は社会が抱える喫緊の課題…持続可能な社会に向けて今後も技術面から貢献していきたいですね。
大阪本店/技術・設計部
技術グループ 課長
前田 壮亮さん
(2008年入社)



トータルマネジメントで信頼を得つつける

社会の公器としての「会社」を管理運営していくために、管理部門がトータルマネジメントで生産活動と連携…効率的な組織運営でお客様からの信頼を得つつけます。

様々なインフラや社会基盤の整備を通じて「強い国土と人々の安全で快適な暮らしを守る」ことを使命とする当社は、調査・計画から設計・施工・アフターサービスまで「ものづくり」に関わる全てのステージで管理部門が協調しながら生産活動と連携。事業計画の立案をはじめ「ヒト・モノ・カネ・情報」の適正な調達・配分などトータルマネジメントで円滑な事業活動を支えています。また、事業の成果を集計・管理して企業活動全体の質の改善向上に努めるとともに、ステークホルダーの皆様適切に開示…お客様はもとより広く社会から信頼を得つつけることで、企業としての社会的責任を果たしていきます。



“経理”は会社の今と将来を見通す根幹!

大阪本店の経理グループは、大阪はもとより広島・九州まで西日本全域の日々の入出金管理から、各協力会社等への支払を含め会計に係る業務全般を行っています。支払に関しては常に細心の注意を…そして会計のみならず税務の観点からも適切な処理ができていますか…また、大阪本店は若い職員が多く経験も浅いため、実体験を踏まえながら細やかな対応及び指導を心掛けています。工事部の頃から「事務職であっても現場を知ることが何より重要」と認識。各作業所並びに広島・九州支店の動向をしっかりと把握して経営状況を数値化できれば、将来



の見通しや問題点等も出てくると思います。「経理は会社の根幹を担う重要な部署」と自覚し、今後も“経営の一翼”を担ってまいります。
大阪本店/総務部
経理グループ GL
大村 健二さん
(2002年入社)

現場を知ることとはどの部署でも活きる“礎”

生産事務グループは、作業所の原価・損益の管理をはじめ近隣対応や式祭事等、作業所開設から竣工に至る間の円滑な現場運営と損益管理などが主たる業務です。現場ごとに異なる不確定な要素を加味しながら作業所長と情報を交換…損益見通しや安全管理に寄与することは責任重大であるため、担当する複数の現場に可能な限り足を運び進捗状況や職場環境等に目を配る日々。躍動する現場を肌で感じられることに加え、立場の違う方々との関わりを通じて人間力も養える今の業務にやりがいを感じています。「現場をよく知る」ことはどの部署でも活

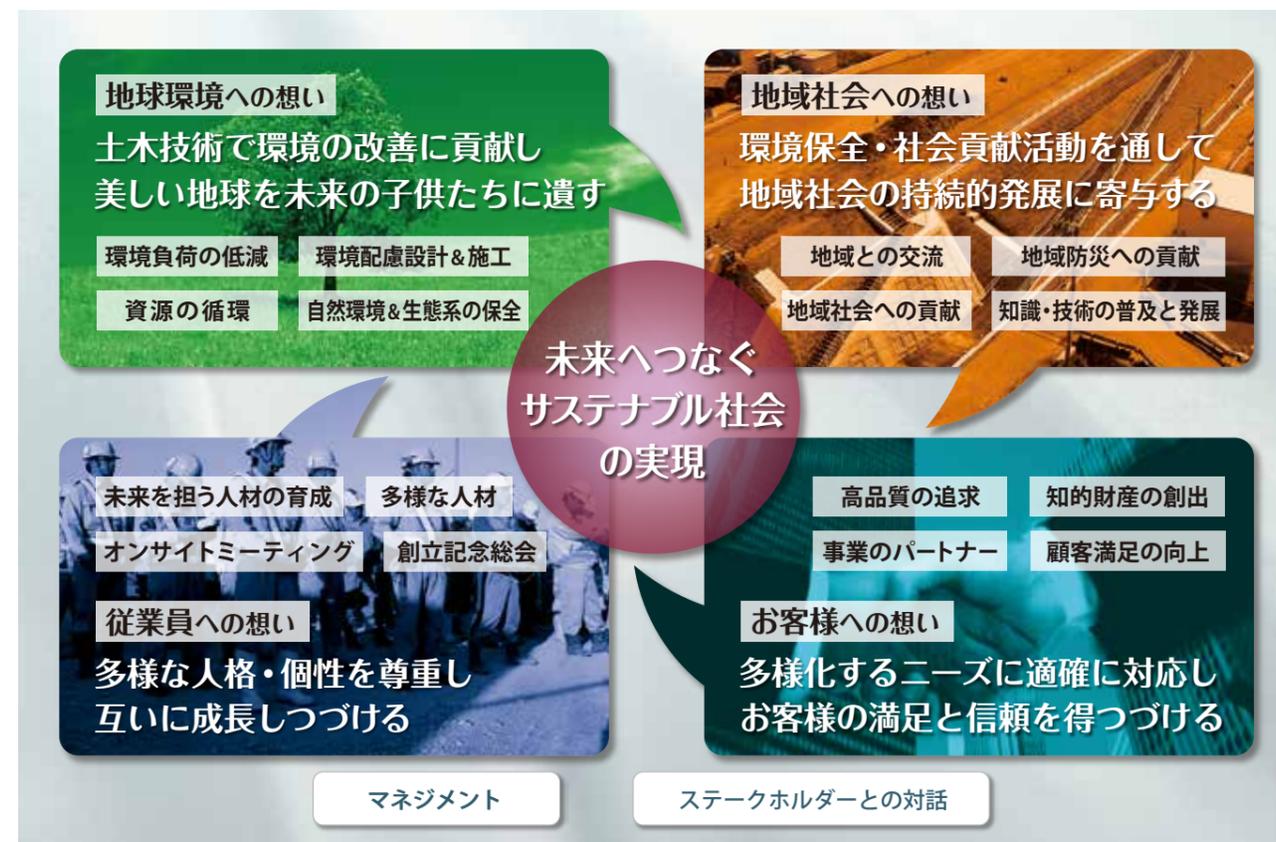


きる『礎』…今後も現場への理解を深めるとともに様々な関係法令や会計・経理知識等を学び、会社の発展に貢献していければと思います。
名古屋支店/工事部
生産事務グループ
船津 昭博さん
(2017年入社)

当社は、創立以来『最良の作品を世に遺し、社会に貢献する』という経営理念のもと社是を基本姿勢として、お客様のニーズに応える『作品』を提供し続けてきました。そして、お客様満足とともに社会の信頼を得て社会的価値を高める事業活動を実践してきました。繰り返される自然災害への備えやインフラの延命策など、多くの社会的課題を抱える近年私たち建設業に求められる機能や役割、果たすべき社会的責任は益々重要性を増してきています。当社におけるCSR推進の目標は、多様なステークホルダーの皆様との対話を深めながら事業活動を通して社会的課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献することにあります。竹中グループCSRビジョンのもと、SDGsや脱炭素社会の実現に貢献して企業評価を高めていくとともに原点である『企業理念』を社会的使命として一人ひとりが胸に刻み行動指針である『企業行動規範』を実践することで目標を達成していきたいと考えています。

企業理念	経営理念	最良の作品を世に遺し、社会に貢献する		
	社 是	正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし 勤勉業に従い職責を全うすべし 研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし 上下和親し共存共栄を期すべし		
品質経営	竹中グループ 品質経営基本方針	品質重視の経営に徹し 新しい環境創造への挑戦によりお客様満足と社会の信用を得る		
ビジョン	竹中グループ CSRビジョン	私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を深め、その想いを「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会へつないでいきます。		
方針	安全衛生方針	品質方針	環境方針	人権方針
	調達方針	税務方針	内部統制基本方針	個人情報保護方針
行動指針	企業行動規範	<ol style="list-style-type: none"> お客様満足とまちづくりを通じた持続可能な社会の実現 法令及び社会規範の遵守 情報の開示及び保護 人権の尊重 働きやすい職場環境の実現 地球環境への貢献 社会への貢献 危機管理の徹底 国際規範の尊重と各国・地域への貢献 実施体制の整備と違反への対応 		
メッセージ	竹中グループメッセージ	想いをかたちに 未来へつなぐ		
	竹中土木コーポレートメッセージ	人と地球の架け橋に		

ステークホルダーの皆様とともに…「未来へつなげる」4つの想いと取り組み



2021年の主な活動計画と実績・事例

活動領域	主な活動計画	主な活動実績・事例	主なSDGs	
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の低減 資源の循環 環境配慮設計&施工 自然環境&生態系の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化を抑制する生産活動の展開 自然環境や周辺環境に配慮した設計及び施工の推進 生産活動から発生する建設副産物最終処分量の低減 建設副産物の3R活動推進 施工地域の環境への配慮&周辺環境との調和と保全 自然環境並びに生態系保全に配慮した創意工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会に向けて工用電力の供給に軽油代替燃料を導入 (P36) 施工における振動・騒音測定を実施して施工環境を管理 (P36) 全国の事業所・作業所におけるLDE照明の導入を推進 (P36) 建設副産物最終処分量の低減とリサイクル率の向上 (P36) 工事で使用する大量の水を廃棄せずに「再利用」(P36) 周辺河川への油分の流出を防ぐ防油堤&油水分離機の設置 (P37) 溜池に生息する魚類の保護&生態系に配慮した濁水処理と騒音・振動対策 (P37) 	
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流 地域社会への貢献 地域防災への貢献 知識・技術の普及と発展 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や行政をはじめ教育機関・NPO・NGOとの連携と協働 地域社会に寄り添った生産活動及び社会貢献活動の推進 地域の環境美化及び維持に貢献する活動の推進 作業所における「地域防災」への貢献 地域への貢献と持続的な発展に寄与する知識の普及と展開 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自治会や老人クラブの皆様を招いて工事見学会を開催 (P38) 子供たちの通学路に何でも相談できる「こども連絡所」を開設 (P38) 地域の環境美化…要望に応じて「ソメイヨシノ」の苗木を植栽 (P38) 豪雨により被災した地域の災害復旧を支援 (P39) 小学生を対象にキャリアガイダンスや「理科特別授業」を実施 (P39) 全国各地の技術展示会に出展 (P39) 	
お客様	<ul style="list-style-type: none"> 高品質の追求 知的財産の創出 事業のパートナー 顧客満足の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動における協力会社と一体となった高品質の追求 知的財産権の創出及びお客様への還元 お客様の要望に応える最適なソリューションの創出と提供 お客様と社会の安全・安心を守る土木技術の革新と開発 	<ul style="list-style-type: none"> 作業所における品質マネジメントシステムの効果的な運用 (P40) 新しい技術・工法を創出し「特許出願」並びに「権利取得」(P40) 土地活用のパートナーとして最良のソリューションを提供 (P41) お客様や地域・住民への貢献を目指したまちづくりを促進 (P41) 「お客様の意向に沿ったまちづくり」を地権者と一体となって推進 (P41) 	
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 人材の育成 多様な人材 オンサイトミーティング 創立記念総会 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のキャリア形成と能力開発の実施及び支援 健康で豊かな生活のためのワークライフバランスの推進 女性活躍推進をはじめ多様な人材の採用・育成及び活躍促進 社員の意見をワークライフバランスや教育機会の拡充に反映 毎年全社員が参加する「創立記念総会」 	<ul style="list-style-type: none"> 時代に即した階層別教育カリキュラム、メンター制度の推進 (P42) 多様な人材が活躍できる「ダイバーシティ・マネジメント」を推進 (P42) 「ワークライフバランス」を向上させる従業員支援制度の充実 (P42) 経営トップが社員と語らう「オンサイトミーティング」を継続実施 (P43) 創立記念総会にて社員一人ひとりに経営方針を説明&各種表彰制度による社員のモチベーションアップと全社の一体感を醸成 (P43) 	
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 組織統治 公正な事業慣行 危機管理 安心と信頼 	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制の継続強化 公正な事業慣行及びCSR・コンプライアンス知識・意識の向上 法令改正に対応した社内周知と法的リスクの予防 災害発生時に備えた社内対応体制の整備と強化の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ガバナンス体制の充実で内部統制を継続強化 (P44) コンプライアンスニュースの定期発信、eラーニングの実施 (P44) 社外講師によるCSR役員セミナーの実施 (P44) 建設業法遵守の徹底、社会保険未加入会社への指導 (P45) BCPに基づく災害発生時のシミュレーション訓練の継続実施 (P45) 	

環境方針に基づき環境に配慮した設計や環境負荷を低減する施工、環境技術の提案を行っています。
また、脱炭素社会、省資源・省エネルギー、資源の循環、自然との共生への取り組みを推進しています。



①②：脱炭素に貢献する軽油代替燃料を現場に導入 ③④：騒音・振動をモニタリングして周辺環境に配慮 ⑤⑥：LED照明を現場に導入して電力使用量を抑制

⑦：竹中グループ環境月間 ⑧：工場で使用する水をリサイクルして再利用 ⑨：工事計画予定地内の溜池に生息する魚を保護 ⑩：河川への影響を抑制する濁水処理で生態系を保全

環境負荷の低減



❖ 脱炭素への取り組み

近年、持続可能な社会に向けたSDGsの取り組みが求められています。中でも「脱炭素」は非常に重要なテーマです。当社が進める道路トンネル工事の施工場所は、工事用電力の供給が非常に困難な山深い山間部でした。そこで、軽油を燃料とする従来の発電機での電力供給を計画していましたが、「脱炭素社会」への取り組みとして「環境配慮型燃料」の利用を検討し、天然ガス由来の環境配慮型軽油代替燃料GTL (Gas to Liquid) を使って電力供給を行いました。また、その他の作業所においては、仮設電気、現場宿舍や詰所の照明についても再生可能エネルギー由来の電力 (RE100) の調達を順次進めています。

❖ 騒音・振動測定による施工環境の管理

住宅地に近接した建設工事においては、騒音・振動による周辺環境への影響をできる限り低減した対応が必要です。当社が進める新幹線トンネル工事では、施工範囲の一部に隣接する住民から「工事による騒音や振動への不安を解消する取り組み」が求められ、騒音計・振動計を設置することで施工環境を管理。騒音や振動をデジタル表示で「見える化」したことで、住民の皆様から「安心した」と評価頂きました。

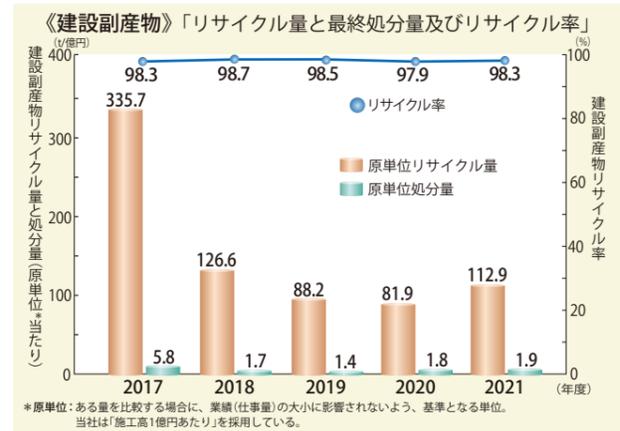
❖ LED照明の導入推進

当社は、脱炭素社会に向けた取り組みの一環として、全国の事業所や作業所におけるLED照明の導入を推進しています。

資源の循環



当社は全国の作業所において、工事により発生する建設副産物の発生抑制と再利用・再資源化を促進し、資源循環型社会の形成を強力に推進しています。



❖ 工場で使用する削孔水を再利用

大阪府で進める鉄道橋耐震補強工事では、既存コンクリートを削孔する際に大量の水を使用します。そこで、発生する削孔水を棄てずに活用する「再利用」に取り組みました。発生した削孔水をペール缶に一旦集水した後、ポリタンクに集めて凝集材を添加。沈殿分離した上水をポンプで回収し、次の削孔作業で再利用…この取り組みにより、コンクリート削孔作業で使用する水量を大幅に削減するとともに、これまで廃棄処分されていた処理水の削減にもつながりました。

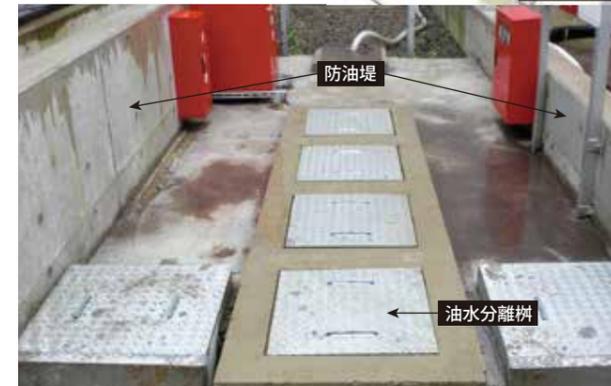
環境配慮設計&施工



当社は、施工地域周辺の自然環境に配慮…周辺環境と調和する設計・施工を推進しています。

❖ 周辺河川に配慮した防油堤&油水分離柵の設置

当社が進める道路トンネル工事の施工場所は、自然環境に恵まれた山間部で付近には綺麗なダム湖もあります。そのため工事に伴う河川への油分の流出は厳禁…厳重な排水対策が求められました。そこで、油分が流出しやすい発電設備の周りに防油堤と油水分離柵を設置。徹底した管理を行って河川への油分の流出を防止し、周辺の自然環境保全につなげました。



現場に設置された防油堤と油水分離柵

自然環境&生態系の保全



当社は全国の建設工事において、河川や海などの自然環境や生態系を保全する様々な取り組みを行っています。

❖ 農業用溜池に生息する魚類の保護

当社が、設計・施工を一貫して行う商業施設敷地整備工事においては、計画予定地内にある「溜池」に鯉や草魚などたくさんの魚が生息していました。この「溜池」は工事中に撤去され、別の場所に新たな池が作り直される予定でした。そこで、毎月の地元定例会で「これらの魚類をどうするか」について話し合い…「溜池の水位を低下させて魚類を一旦捕獲・保護し、新設する溜池に放流してはどうか」と意見がまとまり、地元の方々と共に魚を捕獲～放流…地域の皆様とともに「生態系の保全」に貢献しました。

❖ 生態系に配慮した濁水処理と騒音・振動対策

福井県の新幹線トンネル工事では、仮設ヤードの雨水を既存排水路へ流出する計画でしたが、水路の下流にトンボの幼虫である「ヤゴ」が生息していることが判明。そこで、自然環境に配慮した濁水処理として「バイオログフィルター」の設置を提案し、濁水の河川への流出を抑制しました。また、別の道路トンネル工事では、山深い山間部に鷹やフクロウなどの猛禽類生息の可能性が指摘されていました。そこで、工事による騒音・振動の発生をできる限り低減させるために注意喚起の標識を設置。自然環境や生態系への影響を低減する活動に取り組みました。

地域社会の持続的な発展に寄与します

私たちは地域の皆様との相互理解に努め、良好な関係を構築しながら事業活動を行っています。さらに、地域社会とのコミュニケーションを大切にしながら社会貢献活動を推進しています。



地域社会に貢献



①②：トンネル工事の見学会 ③④：「こまったときはいつでもおいで」…通学路に「こども連絡所」を開設 ⑤⑥：登山道沿いに「ソメイヨシノ」の苗木を植栽 ⑦：地域の祭りで神輿をかつぐ ⑧：ソフトボールや野球を通じて地域と交流 ⑨：地域の災害復旧支援活動 ⑩：小学生対象のキャリアガイダンス ⑪：小学6年生に理科特別授業 ⑫：ハイウェイテクノフェア2021

地域社会との交流



竹中グループは、全国各地の事業所・作業所において地域コミュニティとの交流を深め、良好な関係を維持・発展させていきたいと考えています。

地域住民との相互理解に努め環境保全と地域の発展に寄与するため、従業員が行う社会貢献活動を積極的に支援するとともに、地域・行政をはじめ教育機関やコミュニティと密接に関わっているNPO・NGOとの連携・協働にも努めています。

❖ 工事見学会を開催

当社は全国各地で進める建設工事において、地域の皆様が現場に招く「工事見学会」を開催して交流を深めています。福井県の新幹線トンネル工事では、地元老人クラブ連合会からの要望を受け、30名の皆様を招いて「工事見学会」を開催。当日はマスク着用や手指の消毒を徹底するとともに安全にも配慮。参加された皆さんは、急ピッチで進められる新幹線建設工事に変化興味を持たれたようでした。

また、滋賀県のトンネル工事では、地元自治会の30名を招いて「工事見学会」を開催。工事の進捗状況や建設機械等の紹介を行って工事に対する理解を深めて頂きました。参加した皆様からは、「滅多にない貴重な体験をさせてもらい大変嬉しく思う」など好評を頂きました。

❖ 地元祭事での神輿の担ぎ手支援

岩手県の防潮堤築造工事においては、地元の祭事に参加…地域の少子高齢化に伴い年々不足している「神輿のかつぎ手」を作業所職員が担いました。

地域社会への貢献



当社は、全国の事業所や工事業所において社会貢献活動を積極的に推進。地域の防犯・防災や環境の整備などを通じて地域社会の発展に貢献しています。

❖ 通学路に「こども連絡所」を開設

大分県で進める高速道路耐震補強工事では、近隣に保育園・小学校・中学校が多く、作業所の前が子供たちの通学路にもなっていました。そこで当社は、「地域の子供たちのために貢献できることはないか?」を検討…登下校の途中で『何かこまったこと』があったらいつでも相談できる「こども連絡所」の設置を地域の小学校に申し入れ…許可を頂きステッカーの交付を受けて開設。併せて、のぼり旗を立てて「こまったときはいつでもおいで!」と子供たちにアピールしました。

実際に、8月の暑い日…「友達が熱中症で倒れた!」と中学生が助けを求めて飛び込んできました。これに対応した当社職員が、倒れた生徒を休憩所まで運び入れて水分補給等の応急処置を行い、幸い無事だったので母親と一緒に帰宅…その後、ご両親から感謝の言葉を頂きました。

❖ 地域の要望に応じて「桜の苗木」を植栽

福井県の新幹線トンネル工事では、施工を行うなかで近隣の方々が利用する登山道沿いに平地ができるため「植栽」を検討。地域の方々と協議を行ったところ「桜の木を植えてほしい」との要望が多く出され…「ソメイヨシノ」の苗木を植栽しました。数年後には、成長した「桜」が登山道を利用する皆さんの目を和ませてくれることでしょう…。

地域の災害復旧支援



近年の気候変動に伴い、大型台風の発生や豪雨による河川の氾濫、道路・鉄道網の寸断など自然災害の脅威が増えています。当社は、こうした災害から人々の暮らしを守る「強い社会基盤づくり」に貢献するとともに、『防災・減災』に寄与する技術開発や被災地域の災害復旧支援に力を注いでいます。

❖ 豪雨により被災した地域の災害復旧支援

2021年8月、広島県で進める河川工事の現場近辺で『線状降水帯』が発生…3日間で累計500mmを超える豪雨に見舞われました。降り続く豪雨で裏山が崩れて被災した家屋をはじめ、甚大な被害にあわれた付近の方々は途方に暮れ…なすすべもない状況でした。そこで当社は、住民の皆様と協議して『災害復旧支援』を申し入れ…被災した方々とともに職員総出で3日間、被災した家屋や道路などの復旧活動に励みました。当社の迅速な行動に、地域の方々からは「大変助かった」とのお言葉を頂き…合わせて感謝状を受領しました。



災害復旧支援活動に対して地元から感謝状を受領

知識・技術の普及と発展



竹中グループは、作品や技術の公開を通して「ものづくり」の精神や知識・技術の普及と発展に寄与したいと考えています。学生向けの技術研究所見学会、小学生を対象としたキャリアガイダンスや特別授業、現場見学会の開催などでステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進しています。

❖ 地域の小学生に「理科特別授業」

大阪本店では子供たちに理科特別授業を継続実施。2021年は、小学校6年生を対象に理科の単元「大地のつくりと変化」に基づく「地震や液状化現象のメカニズム」等の授業を行いました。授業ではクイズを出題したり、児童全員に液状化再現キットを配布して自ら体験し理解を深められるよう工夫。また、当社職員の経験を通じた「ものづくり」への想いを伝え…土木分野への興味関心を高めてもらえるよう取り組んでいます。

❖ 全国各地で展示会に出展

防災や環境問題の解決に役立つ技術・活動を知っていただくとともに、ステークホルダーの皆様からの意見を反映した技術開発を目指して、全国各地で展示会に出展しています。

● 出展した主な展示会

- 6月/仙 台 EE東北'21
- 10月/東 京 ハイウェイテクノフェア2021
- 10月/新 潟 けんせつフェア北陸in新潟2021
- 10月/福 岡 九州建設技術フォーラム2021
- 10月/大 阪 建設技術展2021近畿
- 10月/札 幌 北海道都市開発・建設総合展2021
- 11月/オランダ 建設技術フォーラム2021in中国
- 11月/東 京 建設技術展2021関東
- 12月/名古屋 建設技術フェア2021in中部



建設技術展2021近畿

高度化・多様化するお客様の課題・ニーズに応える最良のソリューションを提供…

『高品質で魅力的な作品の創造』を継続することでお客様の満足と信頼を得つづけます。



①：盛土の品質管理精度を大幅に向上させる転圧管理システム「デュアルマストローラ」 ②：三郷北部地区土地区画整理事業の全景（埼玉県） ③：三郷北部地区土地区画整理事業・軟弱地盤対策

④：造成工事を終え…2023年4月の街開きを待つ「Up DATE Cityふくしま」 ⑤：「プレロード盛土」で地盤を強化 ⑥：暮らしに潤いをもたらす公園

私もパナソニック ホームズは、持続可能性の高い「サステナブル・スマートタウン」等の構築をはじめ、街区デザインやタウンマネジメントにまで配慮した「戸建住宅中心の街づくり」を進めるとともに、地域それぞれの魅力を最大限まで高める多彩な街づくりを通じて、少子高齢化や地域活性化などの課題の解決を目指しております。本事業の遂行にあたり…土地区画整理事業に多数の実績を有し、これまでに多くの弊社開発物件の施工を担当頂きました御社に「街づくりのパートナー」として事業を実施頂きました。多くの課題はございましたが、所長を中心に御社の皆様が常に関係者の最良を考え、総開発面積14.1haの造成工事を無事完工頂き…感謝しかございません。この新しい街は全体のコンセプトを「Up DATE City」と定め、その時々に必要な「くらしの仕組みやサービス」のアップデートを行って生きがいと活躍の機会を高め、多世代交流を活発化させることで『健幸と生涯活躍のまち』をつくり、『想像を超えたくらし』の提供を目指しています。弊社は今後も、2021年10月に発足した『Up DATE City協議会』と協働し、この新しい街を『地方創生のモデル』とすべく活動して参ります。



熊谷 一義さま
パナソニックホームズ株式会社
街づくり事業部 プロジェクト推進部
伊達プロジェクト推進室 室長

高品質の追求

当社は、経営理念に『最良の作品を世に遺し、社会に貢献する』を掲げ、常に高品質を追求しています。お客様の抱える課題やニーズに最良のソリューションで応えるために、プロジェクトの調査・計画から設計・施工・アフターサービスまでを一貫した流れとして、ISO9001に基づく『品質マネジメントシステム』を運用しています。

また、品質方針を定めプロジェクトの全てのステージで各部門が徹底した品質管理と継続的改善を図るなどトータルエンジニアリングでお客様の満足と信頼の継続を目指しています。

品質方針

1. 顧客満足の向上を目指して、品質マネジメントシステムを構築し、実行し、維持し、継続的改善を行う。
2. 品質マネジメントシステムの効果的運用により、顧客のニーズと期待及び要求事項への適合を図る。
3. 品質方針を実現するため年度ごとに品質目標を設定し、すべての部門と階層に展開して、その達成を目指す。

プロジェクトを具現化するために各部門と連携しながら創造力を駆使…詳細な設計プランを練り上げる

- 耐久性・更新性の検討
- 周辺環境の検討
- 基本設計
- 実施設計・詳細設計
- 耐震・免震・制震構造設計

最適なスタッフで情報を収集・分析
お客様の要求を満足させる
最適なプランを提案

- 立地調査・評価
- 市場調査・分析
- デューデリジェンス調査
- 用地の勘察・選定
- 事業プランの提案
- 土地利用計画
- コンピュータシミュレーション



お客様の満足と信頼の継続

知的財産の創出

当社は、特許権や商標権など『知的財産権』の創出に力を注ぎ、その活用にも積極的に取り組んでいます。竹中技術研究所を中心に、様々な分野で行われる研究開発から設計・施工までを対象とし、これら『知的財産権』を活用することによって当社の独自優位性を長期的に維持することが可能となります。

近年「特許出願」「権利取得」した技術

❖ Dual Mast Roller「デュアルマストローラ」

転圧ローラ鉄輪の両側に2基のGNSSアンテナと傾斜計を搭載して鉄輪位置を正確に算出する転圧管理システムを開発。転圧面の勾配や転圧ローラ旋回時の誤差を許容範囲に抑えるとともに、転圧箇所の正確な位置座標を取得することで、盛土の品質管理精度を大幅に向上させます。

「品質・コスト・工期・安全・環境」面で課題を克服する施工体制を組織…お客様を満足させる「作品」をつくる

- 省力化・省人化工法の採用
- 工程管理・工期の短縮
- 安全管理の徹底
- 建設公害の防止
- 作業環境の整備
- 高精度で耐久性の高い施工
- コンクリートの高度な品質管理
- 全工事の自主検査
- 周辺環境への配慮・保全

作品を通してサステナブルな社会の実現につなげる

- 定期点検・メンテナンス
- 災害時対応
- 補修・リニューアル提案

2021年に「特許権利」を取得した主な技術

- 1 トンネル切羽の簡易監視方法
- 2 コンクリート構造物を効率的に解体
- 3 透過型地盤性状測定装置
- 4 バッテリーロコ、及びトロリー給電システム
- 5 山留め構造→(裏込め土を充填することなく、杭の設置精度が低くても伸縮装置で板材を掘削壁面に当てることのできる山留め構造を提供)
- 6 ベルト損傷検出システム
- 7 モデル学習装置及び設計支援装置
- 8 資材運搬取付装置

「特許出願中」の開発技術は30件

土地活用のパートナー

❖ 未来を見据えた最良のソリューションを…

先の見通せないコロナ禍によって人々のライフスタイル＆ワークスタイルが大きく変容…テレワークの進展に伴う地方・郊外の住宅需要の増加やオフィス・物流拠点などの需要の変化等々…刻々と変貌する社会情勢に即した土地活用の見直しや新しい「まちづくり」が求められています。

また、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱される「Society5.0」…その実装の場として構想される「スマートシティ」についても注目が集まり、その基盤となる「土地区画整理事業」は、多様化する課題や地域特性に合わせた土地活用を促す有効な手段として期待されています。

「土地区画整理事業」に豊富な実績を有する当社は、土地の有効活用に関する様々なノウハウを蓄積。「まちづくり総合エンジニアリング企業」としての取り組みを加速させる竹中グループの一員として「サステナブル社会」の実現を目指し…社会の潮流に柔軟に対応しながら、お客様が抱える様々な課題を解決する最良のソリューションを提供します。

❖ 安心・安全・快適・健幸なまちづくりを目指して…

相馬福島道路・伊達中央インターチェンジ程近くの福島県伊達市保原町の高子駅北地区は、高子ハイタウンや団地が近接し、都市計画のマスタープランにおいて伊達市定住を促進する新たな住宅団地の開発地区と位置付けられています。本地区の土地区画整理事業において造成工事を担当した当社は、「安心・安全・快適・健幸なまちづくり」のコンセプトの下、

関係機関・地域住民の皆様と相互の適切な役割と責任を認識して2018年より工事を開始。旧阿武隈川流域の軟弱地盤に対し圧密沈下を事前に促進させる「プレロード盛土」を行って住民の安全・安心に寄与する地盤の強度増加を図りました。さらに、散水や道路清掃等を繰り返し行って周辺の環境にも配慮。近隣住民の皆様との良好な関係を継続して2021年8月に施工を完了しました。

❖ お客様の意向に沿った「まちづくり」を…

埼玉県三郷市北部で進める土地区画整理事業では、まちの将来像として「きらりと光る田園都市みさと〜人にも企業にも選ばれる魅力的なまち〜」が掲げられ、「産業立地ゾーン」と住宅地並びに近隣地域や環境との調和が求められています。当社は、「安心な資金調達」、「確実＆早期の事業完了」、「土地活用意向の実現」、「地域への貢献」の4つの基本方針を掲げ、地権者の皆様や関係者の方々とも一体となってお客様の意向に沿った「まちづくり」を目指しています。

施工に伴う環境対策では、中性～弱アルカリ性の吸水性泥土改質材を用いた土工事により近隣農家に配慮。工事中の盛土材搬入時などにおける騒音・振動・粉塵の測定＆監視の確実な実行により近隣住民への環境配慮を行っています。また、湛水区域である本事業の調整池は周辺地域の降雨も貯水できる容量を有し、浸水被害の低減による地域の防災化や活性化も期待されます。当社は今後も、関係者の皆様ともお客様が誇りを持つ「まちづくり」を推し進めていきます。

当社は、人権はもとより多様な人格・個性が尊重される職場づくりを行うとともに安全・健康にも配慮…
誰もが安心して働ける職場環境を確保することで、従業員とともに持続的な成長を実現します。



①②③:「新入社員現場研修」の様子 ④:キャリア採用の技術者が現場の即戦力に… ⑤:定年嘱託のベテランが「知識・技術」を次世代へと継承 ⑥:外国籍のグローバル社員も活躍
⑦⑧:キャリアアップした女性技術者が管理職として活躍 ⑨:総ての従業員が参加する「創立記念総会」 ⑩:国産材を使った「現しのCLT」が印象的な社員寮「FLATS WOODS千石」

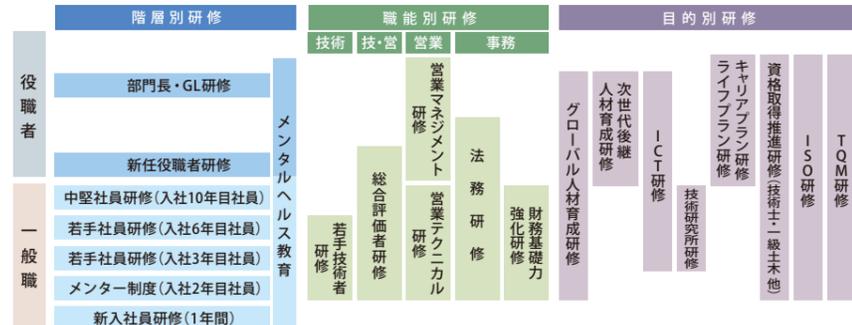
未来を担う人材の育成

当社は、「自ら考え行動できる人材が真のプロフェッショナルとして時代に適合した新たな価値を創出する」という考えのもと、仕事を通じた人材育成を重視しています。
1年間に及ぶ「新入社員研修」をはじめ、一般職や役職者のスキルアップを図る「階層別研修」、技術系から事務系社員まで幅広く対応する「職能別研修」、グローバル人材の育成や技術士等の資格取得を推進する「目的別研修」など、社員一人ひとりのキャリア形成を支援する継続的な人材育成・教育に力を注いでいます。

❖「メンター制度」を推進

他部署の先輩社員がメンター(相談者・助言者)となって、入社2年目社員をサポートしています。心身のケアをしながら将来のキャリア形成を支援するとともに、新たな人脈形成に役立ててもらっています。

❖従業員育成・教育体系



多様な人材

当社は、性別・国籍・年齢などにかかわらず、多様な人材の誰もが働きやすい職場環境の構築を目指して、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。
増えつづける女性技術者を含む新卒採用はもとより、即戦力として期待されるキャリア採用を推進して有為な人材を確保。また、定年再雇用の促進により経験者が持つ「知識・技術の伝承」と若い技術者のスキルアップ等にも力を注いでいます。さらに、女性従業員の就業継続とキャリアサポートに焦点を当てたダイアログや「女性ならではの」意見を取り入れた職場環境改善に取り組むなど「女性活躍推進」を加速させています。当社は、今後もダイバーシティの意識醸成を図りながら、多様な社員一人ひとりがより働きやすい職場環境を実現する施策を推進していきます。

主な従業員支援制度《法定を上まわるものを記載》

事項	制度	内容
育	短時間勤務	子女が小学校4年生の始期に達するまでの間について申出可
	所定外勤務の免除	子女が中学校1年生の始期に達するまでの間について申出可
	始業・終業時刻の繰上げ又は繰下げ	子女が中学校就学の始期に達するまでの間について申出可
	時間外勤務の制限	深夜勤務の制限
育児	勤務時間の繰り上げ、繰下げ特例	勤務時間を変更せずに、時間帯を最大1時間半迄繰上、繰下げが可能
	介護休業の取得日数	対象家族1人につき通算365日迄3回を上限に分割取得可
介護・私健康	シックリープ(失効年休の積立制度)	私傷病及び家族の介護のために失効年休を最大30日まで利用可
	特別休暇	有効期間は4年間連続または分割取得可 未消化日数は特別シックリープに積み増しされ定年まで利用可
災害	被災時の見舞金制度	自然災害などに遭った場合に支給

オンサイトミーティング

当社は「企業の一番の財産は従業員」と捉え、経営トップが事業所や作業所に出向いて社員とフェイスtoフェイスで懇談する『オンサイトミーティング』を継続して行っています。
2007年からの開催数は107回、参加した社員は延べ918名。毎回8~10名の若手・中堅社員が参加…社長からは「経営層の想いと考え」「経営環境及び課題」など、社員からは、職場環境の改善など「会社への要望」や「仕事に対する考え方と将来の夢」などについて、それぞれ意見が交わされます。さらに、ミーティングの内容は議事録を作成して全社員で認識を共有。時代の潮流を反映した意見や考えなど『社員の想い』を、ワークライフバランスの充実や教育機会の拡充等にフィードバックすることで「企業の一体感」を醸成しています。



創立記念総会の開催

当社は毎年「創立記念総会」を開催…各本支店ごとに社員が一同に会して経営方針の説明や優れた業務成果に対する表彰を行うとともに懇親会を催し、経営トップや仲間との歓談を通じて役職員の一体感を醸成しています。

『女性現場所長』を夢みてキャリアアップを…

入社以来3つの現場を経験…先輩方にご指導頂きながら施工管理の基礎を学ぶとともに業務における責任感やチームワークの大切さ、そして何より仲間とともに試行錯誤して造り上げた達成感など、土木ならではの喜びや楽しさをたくさん味わうことができました(笑)。
この間に結婚～出産というライフイベントを経験…子供を授かった際に「このまま現場に残りたい」という意思を尊重頂き、書類整理や資材の調達などの業務に変えてくれた会社の配慮と周りの方々の気遣いには感謝あるのみ。育休明けの5月からは内勤の積算業務…現場とは業務内容も考え方も大きく違うので戸惑うことも多いのですが、上司を見習って1日も早く積算のスキルを身につけ、工事を落札して現場へとつなげられたらと思っています。子育てしながら働くことの大変さを実感する毎日ですが、



職場の理解とフォローに感謝しつつ研鑽を重ね、入社当初からの夢である「現場所長」に向けてキャリアアップしていきたいですね。
東京本店/営業部
営業推進部 積算グループ
北尾 純香さん
(2017年入社)

当社は企業理念のもとで「品質経営」を実践…お客様の満足や社会からの信頼を得るとともに企業としてのガバナンスを高めながら社会的責任を果たしていきます。

組織統治

経営の質の向上と迅速・的確な意思決定を行うガバナンスの充実

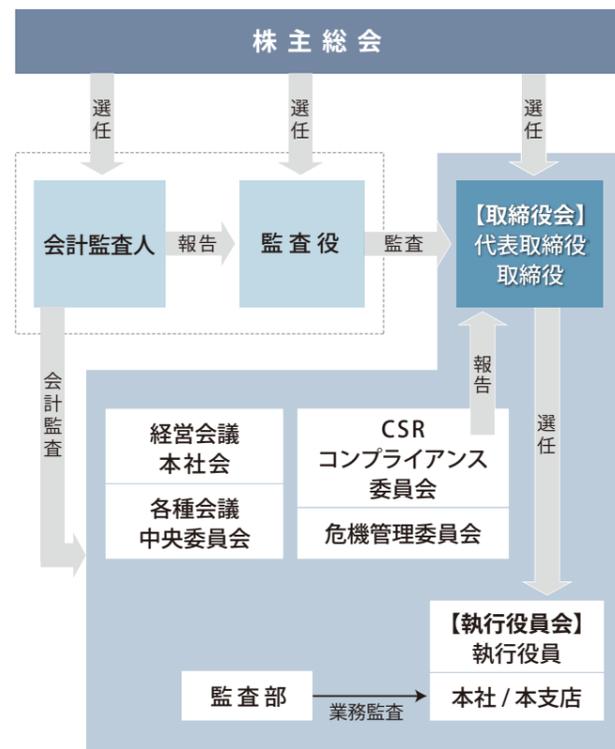
お客様や広く社会から信頼を得て、企業の社会的価値を高めるという考えのもと、企業活動全体の質の改善向上と経営の倫理性・透明性を高めるために、ガバナンス体制を構築し適正な運営に取り組んでいます。

当社は、経営トップが率先垂範して企業倫理の確立と教育・啓蒙を図っています。社員一人ひとりが、企業行動規範を徹底実践することで、法令及びその他の社会規範を遵守…公正・透明・自由な競争並びに適正な取引を行うことで社会的責任を果たしていきます。

また、ステークホルダーの皆様から信頼され社会的責任を果たしていくために「CSR・コンプライアンス体制」を構築。お客様の満足と社会からの信用を得ながら、良識ある企業活動を実践しています。

内部統制については「内部統制基本方針」に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避と軽減、及び平時における危機管理活動の推進など、全社的な体制整備や啓発に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制図



CSR・コンプライアンス体制を構築し啓発活動を行っています

CSR及びコンプライアンスを維持・向上させる体制として、社長をトップとする「CSR・コンプライアンス委員会」を設置し、企業行動規範及び関係法令の遵守を推進しています。

また、CSR・コンプライアンスを推進する体制として本社に「CSR・コンプライアンス推進責任者」、各本支店に「CSR・コンプライアンスリーダー」を選任し、当社並びに竹中グループの一員としての教育・啓発の推進役としています。

具体的な取り組みとしては、竹中グループ全体で「eラーニング」を利用したCSR・コンプライアンス教育の実施や「CSR・コンプライアンスニュース」の配信を行うほか、毎年11月に実施する「竹中グループCSR・コンプライアンス月間」において、社外講師による「CSR役員セミナー」の開催や職場における「CSR・コンプライアンスミーティング」を実施。

こうした活動を繰り返し行うことで、コンプライアンスを含むCSRに関する知識・意識の向上を図っています。



コンプライアンス・ヘルプライン

コンプライアンス経営への取り組みを強化するために、コンプライアンス違反等に関する通報を適切に処理し、自浄作用を高めるとともに、外部への通報による風評リスク等を減少させることに資するため、従業員用としてコンプライアンス・ヘルプライン及び竹中グループ・コンプライアンスヘルプラインを、また、社外の協力会社関係者用としてパートナーズ・ネットを設置しています。

公正な事業慣行

関係法令の改正内容の周知徹底と建設法令遵守への継続した取り組み

「法令順守」に基づいた適切な企業活動を実践するために、関係する様々な法令などの改正及び運用動向の社内への周知・徹底に努めています。会社経営等にかかわる法改正はもとより建設業や労働安全・環境などの実務的な法令の改正に際して、適切かつ確実な対応を図っています。

毎年、国の定める「建設業取引適正化月間」にあわせて、作業所における「建設業法の順守」・「社会保険加入状況の確認やフォローの確実な実施」について、期間を設けてあらためて確認を行うなど、全社を挙げて適切に取り組むよう周知徹底しています。

反社会勢力への対応

全国の都道府県において「暴力団排除条例」が施行され、暴力団を取り巻く法整備の状況や社会における反社会勢力に対する意識が大きく変化しています。

そうした中で当社は従来より、全ての取引会社との間において「暴力団排除に関する契約」を締結するとともに、取引会社や関係各所と幅広く情報を共有し、全社的に水平展開を図りながら「反社会勢力との関係遮断」を徹底しています。

安心と信頼

ステークホルダーの皆様からの評価《2021年の主な評価・表彰》

工事表彰	感謝状 感謝状 優秀工事 他の模範・優秀な成果 防災・供給部長賞 感謝状 感謝状	西部ガス(株) 西日本高速道路(株) 東日本高速道路(株)東北支社 国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所 東京ガス(株) (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構北陸新幹線建設局 叡山電鉄(株)	・釣川河川横断ガス管理設推進工事 ・大分自動車道災害復旧工事 ・山形自動車道風明山トンネル西坑口地すべり対策工事 ・東北自動車道上保原トンネル工事 ・安塚シールド工事 ・北陸新幹線敦賀駅高架橋他工事 ・叡山電鉄鞍馬線土砂災害復旧工事
その他表彰	第48回環境賞・環境大臣賞 他の模範・事故防止対策 感謝状 全建賞 感謝状 第2回土木賞	環境大臣 (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 東日本高速道路(株)新潟支社 (一社)全日本建設技術協会 (一社)日本建設機械施工協会 (一社)日本建設業連合会	・汚染地盤の加温式原位置浄化技術 ・令和2年度工事(丸岡春江高架橋工事他多数の工事) ・関越道除雪応援を派遣(常磐自動車道大久北工事) ・わが国の建設事業発展に貢献 ・協会事業推進への尽力 ・大分川ダム建設工事
地域貢献	感謝状 感謝状 感謝状 感謝状	水土里ネット 祇園町他二ヶ町土地改良区 吉田町ボランティアセンター 首都高速道路(株) 福井県越前市庄町区長	・八木用水クリーン活動 ・令和3年豪雨被災地復旧(三篠川災害復旧工事) ・令和2年積雪・凍結対策 ・公民館建て替え時の賛助

将来に亘って健全な事業活動を継続するため、積極的にステークホルダーとの対話を行っています。そこで議論された意見・課題等は全社で共有し、様々な事業分野へフィードバックしています。

竹中グループの「道路舗装スペシャリスト」として豊富な経験と実績をもつ竹中道路は、生活に欠かせない「道」の整備や維持管理、新技術の開発などでお客様の信頼を得つづけています。



①②：インターンシップ ③：「土木学会tv」の新企画に当社職員が協力 竹栄会活動…④：事業主研修会(広島) ⑤：「ICT施工」推進に向けた見学会 ⑥：労働災害ゼロに向けて…安全総大会(東京)



⑦：インターンシップ(2021年/2019年) ⑧：IH式舗装撤去(阪神高速道路) ⑨：遮熱性舗装(江東区) ⑩：ハニカムグリーン(太田PA) 国土交通省から⑪：工事成績優秀企業認定 ⑫：局長表彰

未来を担う学生への支援と交流

当社は「持続的な発展を継続するためには従業員の確保・育成が肝要」と考え、建設業の未来を担う学生たちへの支援と交流に力を注いでいます。

❖ インターンシップ(就業体験)

学生にとって将来の仕事を感じ取るインターンシップは重要ですが、本年はCOVID-19感染防止に配慮…参加人数を抑えるとともにマスク着用と手洗い・うがいを徹底。学生へのフォローはWEBを活用する等の対策を講じて実施しました。今後も当社は、学生たちとの交流を通じて「意見や想い」などを企業として共有…将来を担う技術者のキャリア形成や人材育成力の向上に役立てていきます。

❖ 作業所・研究所見学会

当社は、学生の建設業への理解やキャリア形成に資する場として…また、企業が果たすべき社会的責任の一環として作業所や研究所の見学会を継続して行なっています。

『土木学会tv』の新企画に協力

土木学会tvの新企画「となりの現場めし」…その第1弾「ゼネコンで働く女性職員に密着」に当社職員が出演協力しました。この企画は、土木現場で働く人たちの「昼ごはん」を紹介するとともに「仕事のやりがい」やプライベートな一面まで…土木の世界で働く人々の「リアルな日常と想い」を「YouTube」動画で配信していくもので、当社職員が出演する第2弾～第3弾も配信されています。

協力会社とのパートナーシップ 絆を深める「竹栄会活動」

「竹栄会」は、全国184の協力会社で組織され、技術力の強化と生産性の向上、並びに労働災害防止活動を積極的に推進し、会員相互の資質向上と体質の強化を図って共存共栄の実をあげ、会社の発展に寄与する事を目的としています。「生産性向上事業」をはじめ「労働災害防止事業」や「労災互助事業」など活動内容は多岐にわたり、当社は良きパートナーとして多方面における協力・支援体制をとっています。

❖ 生産性向上事業

「建設キャリアアップシステム」の導入支援をはじめ、働き方改革や担い手の確保・育成に関する情報を提供。また、厚生労働省が進める新しい取り組みや建設業法等の法令改正等の動きに対応するために「事業主研修」の開催を継続しています。

❖ 労働災害防止事業

安全衛生管理者や職長への研修を支援するとともに、「墜落体感マネキン」を用いた安全教育を支援。また、合同で「安全パトロール」も実施しました。

全国7地区で安全総大会を開催

毎年7月1日～7日までの全国安全週間に先立ち、全国7地区の竹中土木安全衛生管理委員会と竹栄会とが共催して「安全総大会」を開催。安全衛生に秀でた作業所・協力会社及び技能労働者を表彰…安全意識の向上を図るとともに相互の発展に寄与するパートナーシップを強化しています。

「時代の要請に」応えつづける

竹中道路は、竹中グループの道路分野を担い…「交通インフラの要」とも言える「道路」を軸に社会基盤の整備を通じて安全で快適な暮らしと社会発展の一翼を担っています。頻発する自然災害の脅威やインフラ老朽化などが喫緊の課題とされる昨今…時代が求める技術開発と最良の品質を提供することで社会基盤整備に携わる社会的責任を全うし、お客さまのニーズや社会の変化に適確に応えつづけます。また、働き方改革やDX推進、脱炭素などへの取り組みを加速させながら新しい価値の創成に努め、「快適で安全な道づくり&人にやさしいまちづくり」を通じて持続可能な社会の実現に貢献…「未来へとつながる道」を描きつづけます。

建設業の魅力を伝える活動

竹中道路では「建設業について深く知ってもらおう活動」の一環として、建設業を志す学生を対象とするインターンシップや見学会等のイベントを継続開催。2021年は、コロナ禍に苦慮しつつTV会議やWEBシステムを活用して就業体験を実施。今後も内容をブラッシュアップしながら建設業及び当社の魅力を発信していきます。

社会貢献活動の推進

全国の事業所・作業所では「地域に根ざした企業」として、災害復旧や環境美化などの社会貢献活動を積極的に推進。今後も、持続可能な社会に向けてカーボンニュートラルなど様々な環境問題に取り組むことで社会に貢献していきます。

「保有技術」の展開

❖ IH式舗装撤去

竹中道路が開発した「IH式舗装撤去」は、鋼床版とアスファルト舗装の接着面を加熱して表層・基層を一体で剥離する画期的な技術。施工時の騒音を抑制できることで夜間作業が可能となり、撤去材の飛散や粉塵発生も少ないため「周辺環境に優しい工法」として実績を伸ばしています。

❖ 遮熱性舗装…『爽やかコート』

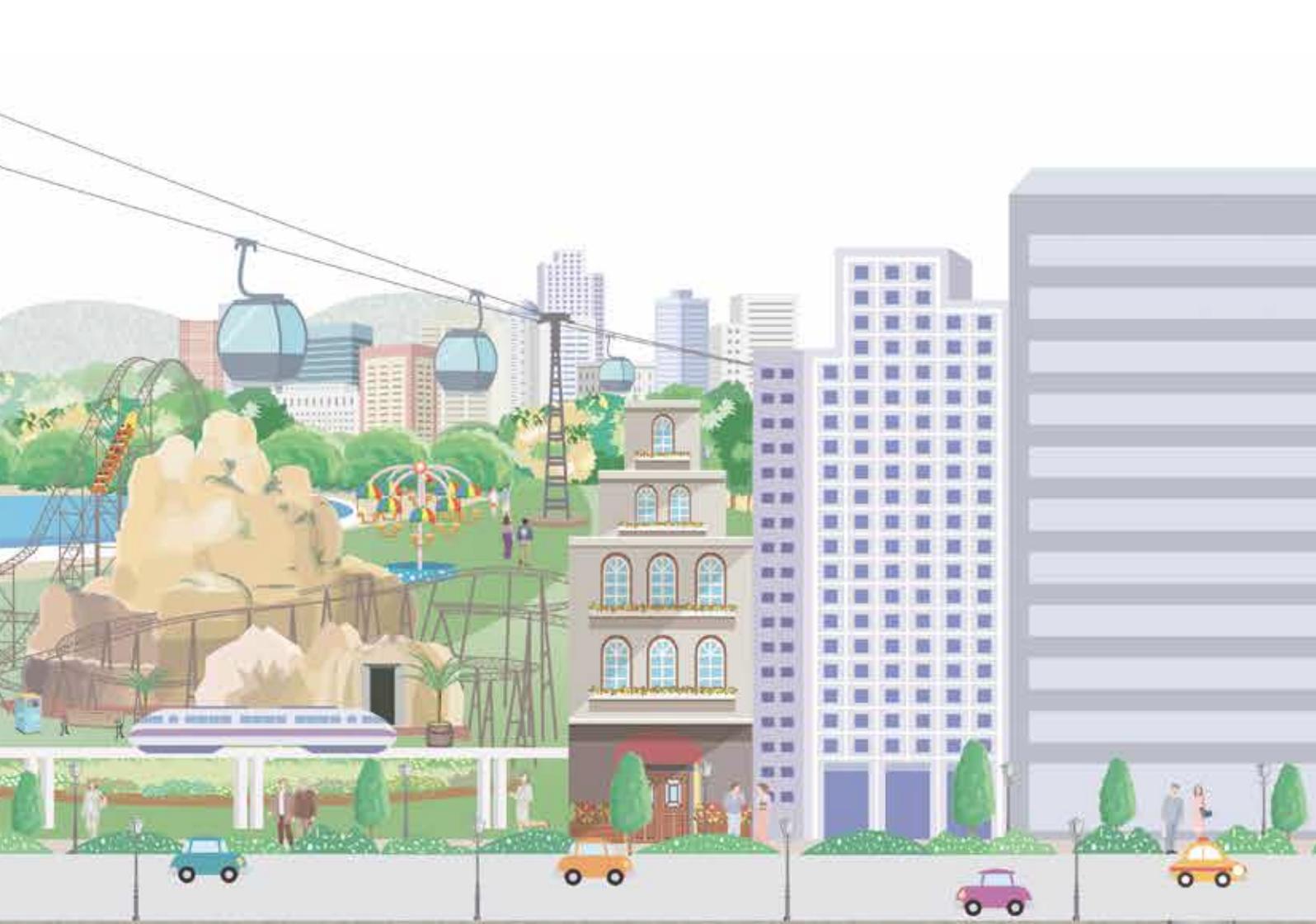
路面温度の上昇を低減させる遮熱性舗装は、東京オリンピック開催時のアスリート・観客への遮熱対策に有効とされ、競技会場周辺の歩道に適用されました。

❖ ハニカムグリーン

公園・遊歩道や駐車場にも適用される「ハニカムグリーン」は、美観に優れ利用者にも優しい芝生舗装として、都市部の緑化面積の確保やヒートアイランド対策にも期待されています。

お客様満足の向上

2021年は、国土交通省より「局長表彰」を3件同時に受賞するとともに、個人でも2名の社員が表彰されました。また、中部地方整備局より「工事成績優秀企業」の認定を受けた名古屋支店は、環境配慮を主体としたSDGs達成に向けた取り組みが評価され、名古屋市から「なごやSDGsグリーンパートナー」にも認定されました。この他、事務所長表彰・難工事表彰・若手担手育成貢献表彰を受賞するなど、多くのお客様から評価を得ています。



人と地球の架け橋に

 竹中土木

<https://www.takenaka-doboku.co.jp/>

